

## 寄稿集

## 「親から子へ・先輩から後輩へ・

## 人から社会へ」

子育ての時期が真っ盛り、あるいは終わりがつつある昭和六〇年三月の卒業生が、我が子の親として、現役岐高生の応援者として、また社会を様々な分野で支える人として、多くの人へのエールを送るといふ主旨で寄稿しました。(五十音順に掲載)

## やりたいことを追いかけて

上原 宏実



私は、今年教員三十年目になる。この仕事をしようと思ったのは高校一年生の時だった。幼稚園の卒園文集に「小学校の先生になりたい」と書いたことを覚えている。まさかここまで続けるとは予期しなかったが、やりたいことができる自分を幸せだと思っている。

我が家は核家族。公務員として誰にも頼らず働き続けることは難しく、幾度か辞めようと思った。二人目を出産して復帰する時、母の容体が悪くなり、

介護が必要になった。私の父は身体障がい者である。二人だけでは心配だと母に告げると「自分のやりたかった仕事でしょう。私のために辞めないで。自分たちのことは何とかするから、できる限り続けなさい」と意外な言葉が返ってきた。その後も迷いはあったが、立ち止まって考える機会を与えてくれる人がいた。

二人の息子は、一歳から保育所で育てていただいた。長男は、目新しいものがあるとすぐに飛びつき、散らかすことが多かったが、先生はそれを制止することなく、納得するまでやらせてくださった。やりたいことを、見守りつつ続けさせていただいたお蔭で、好奇心旺盛な子に育った。次男は三月末生まれのため、入所した時から一番年

下と可愛がられ、甘え上手に育った。二人の個性は違ったが、働くことができるのは子どもたちのお蔭だと思い、やりたいことは応援しようと思った。

長男は、小さい頃から車が好きで、平仮名も漢字もナンバープレートで覚えた。ドライバーを玩具にし、模型を分解するのが一番の遊びだった。将来は車を作りたいと言っていた彼が、一年生の時、サッカー少年団に入りたいと申込書を出した。わけを聞くと、友だちと遊べないから…と。学校の留守家庭児童会と家との往復では寂しかったのだろう。でも、やるよと決めたからには、水分補給、試合の時の氷の準備など、自分のことは全て自分でやらせた。親の負担も心配だったが、よい保護者仲間にも恵まれ、地域でも声をかけていただけるといったことが何よりも幸せだった。

六年生の秋、付属中学校に興味を持ち、抽選に応募したいと言い出した。私は、仲間と一緒に地元の中学に行くと思っていたので、正直驚いたが、新しい仲間を求めているのだと分かり、

願書を出した。決して上手くはなかったが、サッカーは中学校でも続け、試合のたびに地元の仲間と交流できた。中三の高校見学で普通科に出かけた彼は、自分の進みたい所ではないと、工業科に進路を変更した。やりたいことを思う存分やればいい…そう思って送り出した。自分自身がどうしたいのかを考えることができれば、何があっても後悔はしないだろう…そう信じてしかなかった。早く働きたいと言っていた彼だが、飲食店でアルバイトする中で社会人と関わり、進学したいと言いだした。自分で言い出したことだからこそ、仲間と一緒に頑張って取り組んだ。この先どうなるかは分からないが、今は大学のサークル活動で本物の車の修理や改造を楽しんでいる。「新しい仲間を得たい」、「モノづくりがしたい」、やりたいことができる幸せを自分で感じているようだ。

一方、おとなしかった次男は、中二の頃から部活動に参加しなくなり、学校でも居眠りが多くなった。かまってもやらかった報いだと後悔したが、話をしようとするとうんざりになってしまふ、どうにもならない。受験を控え、「どうしたいのか自分で決めたことは、応援するから」と、ただ待つしかなかった。中毒のようにゲームをしていた次

男の出した結論は、情報の道に進むことだった。「危険かも」という担任の助言も話も聞かず、失敗してもいいからと受験した。勉強嫌いで、面倒なことを避けてきた彼だが、高校に進学すると、パソコンの部活動だけは続け、資格を生かして次の道へ進もうとしている。

四年前、母が闘病生活にピリオドを打った。「長い間お疲れ様」と見送りながら、「私のために辞めないで」と言った母の気持ちがようやく分かった気がした。母は専業主婦だったが、続けなさいと私の背中を押しつつ、親としての生き方も教えてくれたのだと……。二人の息子は普通科の勉強をしていないので、この先苦労することも多いと思う。でも、多少の遠回りをしてても時間がかかっても、諦めることなく進んでほしいと願っている。

私は、よい上司や温かい同僚、可愛い子どもたちに囲まれて楽しい日々を過ごしている。子どもたちは、毎日忙しく泣いたり笑ったり、日々成長していて、見ていて飽きない。彼らにもやりたいことや夢があるからこそ、もっと伸ばしてあげたいと常に思う。私が一番気をつけていることは、困ったときに「どうしたいの?」、「そのためにどうしたいの?」と聞くことだ。

成長につれて迷うことや悩むことは多々あると思う。そんな時、最終的にどうしたいのかを決めるのは、やはり

## やっっちゃった! では済まされぬ。からの始まり 加藤 浩行

自分だから……。そして、私は子どもたちの将来を楽しみにしつつ、応援できる教師であり続けたいと思う。



前列中央

あの夏の県大会決勝戦「二死満塁でショートゴロを捕ってセカンドへ……。でも、そこには誰もいませんでした。外野へ転がるボールの赤い縫い目がスローモーションのように……。今でもはっきり思い出せます。間違いなく高校三年間の一番の記憶です。当時の僕は、先輩、仲間、応援してくれた多くの方々を、軽率なプレーで台無しにし

てしまった罪悪感で、これからどう生きていけばいいのかと途方にくれた時間を過ごした記憶があります。最後は必ず上手くいくという、根拠のない自信を打ちのめされた初めての経験でした。でも、それが今の自分を創ってくれたと思います。温かく励ましてくれた仲間がいてくれ、謙虚な気持ちをもつことができたようです。寄稿するにあたって久しぶりに思い出しました。あの時の感情も思い出しますので、少し辛いです。

そんな部活動を通して、岐高生としてもう一つ忘れられない経験があります。他校との練習試合で、二日続けて頭にデッドボールをもらった瞬間、頭に血が上がり「テメェー、コノヤロウ!」と暴言を吐いたことで、ベンチに下げられました。その直後、担任でもあり、顧問でもある宮部敏男先生より、ベンチ裏に呼ばれて、「お前には岐高生としての誇りはなかったか!」と、唾を飛ばしながらの大説教でした。でも恩

師の目には涙が光っていたような。生意気盛りの小僧にも、ここまで熱く真正面から正攻法で叱ってくれた恩師に今でも感謝しています。皆さんの気付きと学びを得た瞬間でした。

卒業後は東京に進学して岐阜を離れ、現在は東京で小さいながらも会社をやっています。真正面から正攻法に取り組むということは、気付くと僕のテーマになっていました。社会に出てみると、世の中には、仮想問題と模範解答と、それを解くノウハウがたくさん溢れているように感じました。効率やスピードが大切なことは言うまでもありませんが、ノウハウはいつか忘れられ、何を求めているかが分からなくなっている状態をよく見かけます。物事の本質を捉えたいと努力する姿勢は、そんな高校時代に養われたようです。

先日、二〇代のスタッフに「社長の話は暑苦しいかな?」と聞いてみました。「人生で多くの時間を仕事に使うのだから、仕事を通して成長し、豊かな人生、やりたいことや夢を実現してほしいと考えているよ」と。そしたら、「最近は何りの同僚たちの雰囲気なんかで自分の考え方も変わってきて、社長の言うこともいいなと思えてきました」と答えてくれました。何かとても

嬉しい出来事でした。これからが楽しみです。

最後に付け加えてください。私には四つ年上の姉（晶子）がおり、岐阜高校の先輩でもあります。その姉は四六歳の時に、病に倒れ他界しました。独身であった姉の最後の一年は、一緒に寄り添う時間が多く、生まれてから一番仲の良い時間だった気がします。でも僕の無知もあり、後悔もたくさん残りました。それを救ってくれるのは、今でも姉の命日に唐澤理絵さん（昭和五六年卒）が中心になって同級生の皆様や旧友の方が集い、お墓参り、前夜には思い出話で飲み明かすなど、心温まる時間を共に過ごしてくれることです。そんな仲間にも弟として加えてもら

い、やっぱり本当に、岐阜高校の学友の絆とは凄いものだと思わされます。また、そんな姉との経験が岐阜にて「つながらず訪問看護ステーション」事業を始めるきっかけをくれました。卒業して三〇年が過ぎ、やっと岐阜でも仕事ができます。姉がそんなプレゼントを残してくれたのかも知れませんが、元氣なスタッフにも恵まれ、微力でも岐阜に貢献できる仕事を底抜けにやれる幸せを感じています。

在校生のみなさんは、卒業後に岐阜卒であることを誇りに思う時がくると思います。諸先輩方が各分野で活躍され、縁を繋ぐこともあるでしょう。高校時代の友は格別です。多くの友を得てほしい！ そう願います。

## 『ワシントンに加藤です』

加藤 芳洋

渡米して二五年。日本にいる友人・知人にメールを送るときの題名は、いつもこの一文で始める。一八歳まで岐阜に住み、その後一〇年足らずを東京で過ごした私には、ワシントンDCがどこよりも長く住む街になった。一九八一（昭和五七）年に岐阜高に入り、一年次は兼松修司先生、二年次は水野秀則先生、三年次は高田睦先生のクラスだった。男子クラスの一年七組は男

子の中の親しみもあつてか、卒業後も時々集まる。数年前には岐阜県庁に勤める梅本雅史君が幹事役を引き受けてくれて、同期の泉善七君の川原町泉屋で有志数人が兼松先生を囲んだ。商社勤務でシンガポール駐在だった堀口勝人君は今も海外だろうか。今さら、学生服も似合わない連中が三〇年前さながらに「俺」「お前」呼ばわりで、お互いの近況をさほど詳しく聞くこと



前列右から5番目

もなく、「久しぶりやなあ」、「元氣か？」と酒席に着いた途端に、机を並べた当時に戻って盛り上がった。「先生囲んで、また会おう！」と約束して別れた、これぞ同窓会という集まりだった。

私の高校時代は、友だちに会いに学校に行っていたようなもので、授業が終わると岐阜のすぐそばにあった同級生の大野賢司君の祖父の家に数人の仲間が集まった。腹を空かせて立ち寄る我々高校生に大野君のおばあちゃんがいとも何か食べさせてくれた。何せほとんど毎日のこと。よくもあんなに親切にしてくださったと感謝の念と共に、特にすることもないまま「都ポウル」（ボウリング場、今はもうないと聞く）の裏手にあった彼の祖父の

家にたむろした時間を懐かしく思い出す。学業には不向きな連中ばかりが集まったが、岐高生であること自体が楽しかった。

私は、岐阜の田舎の長男で、大学には行くものと思っただけだが、将来は岐阜に戻って家業を継ぐつもりでいた。それが太平洋を渡って四半世紀を超え、英語も実用に供する日は来ないかと確信していたし、理数系は無縁の極みで、勉強はそっこのけで司馬遼太郎や城山三郎の本などを読み漁っていた。思えば日本の政治史や経済史に漠然とした興味をもった高校時代が原点で、それに時代の影響が加わって、米国の首都、ワシントンDCで通商貿易・企業法務の弁護士として働く今へとつながった気がする。

昭和六〇年卒の我々が高校、大学生活を送った一九八〇年代は、世界第二位の経済大国だったといわれてもピンとこないが、日本は有数の先進国で、右肩上がりですますます豊かになると信じていた。その日本の経済力が脅威となつて日米貿易摩擦が激化した時代だった。日本を不公正な貿易相手国として米国の通商法で日本企業の製品に制裁を課したり、力技で日本市場の開放を迫るアメリカをこの目で見

て：と思ったのが留学のきつかけだった。そのアメリカが今、不公正な貿易相手国として攻勢を強めるのは中国。仕事を通じての実感だが、当時の「日本異質論」がアメリカから姿を消したのは、日本企業の競争力が落ちたからではなく、この三〇〜四〇年の時間をかけて、米国が日本を知り、日本が米国をよく知る関係になったことが最大の理由だと思う。現在、日本企業の対米投資は堅調で増加傾向にある。その事例が当てはまるとすれば、トランプ政権で過熱をみせる米中貿易摩擦というケンカが中長期的には相互理解を促進し、通商関係に限っていえば、米国の「中国異質論」もいずれ落ち着くものと思っている。などと、硬いことを書いたのは、日米の電子産業界が協力して中国の通商問題に当たろうというのが私の仕事の一つで、少しは自分の今を書かねばと思ったゆえ。

さて、同窓会報への寄稿の機会をもらい、初めて岐阜高校のホームページを見た。インターネットも携帯電話もなかった三〇数年前とは隔世の感があると思いつつ見ていくと、岐高生がアメリカ東海岸に研修旅行をした報告があった。ワシントンDCでも二泊。平成二七年から毎年三月に実施していると聞いた。中部電力のワシントン事務所

所長の松野泰さん（平成元年卒）、中日新聞のアメリカ総局長の後藤孝好さん（平成五年卒）と当地にも岐高OBがいる。現役の岐高生にワシントンDCで会えるとなれば望外の喜びで、今の岐阜の街のこと、岐高のこと、将来の希望など、若い皆さんの話を聞きに、何

## 改めて自彊不息



か差し入れても持つて訪ねてみたい。故郷は居て良し、出て良しで、岐阜高校という同じ場所で一〇代の三年間を過ごした親しみは、昭和、平成の世代を越えてどこで会っても格別なものがある。岐高生のアメリカ東海岸研修。次回があれば是非、お知らせください。

## 木村 聡

「成長戦略」の目的は、少子高齢化という未曾有の課題に挑戦しながら持続的な経済成長を実現し、我が国の存立を確かなものとすることにあります。

二〇一一年から人口減少局面に入った我が国では、右肩上がりの成長は期待できない、最早「坂の上に雲は存在しない」といった見方があります。頑張っても意味がないといった諦念が広がれば、その先には、高齢化に伴うコストをどう分配するかといった、悲観的な将来しか見通せません。果たしてどうでしょうか。

そもそも、成長と人口の増減との関係は線形的ではありません。我が国は、高度成長期に実質平均で一〇%程度の成長を達成しましたが、その間、人口の増加率は年平均で一%を下回っていました。近年、人口が横ばいで推移する中国でも、七%程度の実質成長が実

現しています。そこでは、資本装備の充実や労働生産性の向上が成長を牽引しているのです。

中長期の成長力は、①量・質の両面から見た人的資本、②設備、機械等の物的資本、に加え、③イノベーション（主要生産性：Total Factor Productivity）によって決定されます。労働投入量の減少が見込まれる中、企業がリスクテイクに消極的になっているとすれば、我が国の成長にとっては、イノベーションを生み出すヒトこそが最も重要な要素になると考えられます。

足下では、AI（Artificial Intelligence、人工知能）関連の技術革新が主導する第四次産業革命が進展しています。社会のあらゆる情報がデータ化され、ネットワークを介して大量に集められたデータを機械が学習する。そしてその機械がヒトを超える高度な判断を行えるようになれば、そこにはイノベーションを通じた新たな価値が創出されます（例えば、生命・生物データの活用に伴うバイオ技術の発展によって、医療の高度化、環境・エネルギー問題の解決につながる）ことが期待されています。一方、第四次産業革命には、従来型の定型的な業務に携わるヒトをAIが代替することによって（このこと自体は人手不足の処方箋になり

ます)、雇用のボリュームゾーンが労働移動を余儀なくされるといった「影」の部分が存在することも見逃せません。二〇一五年に民間シンクタンクが公表した研究では、一〇年から二〇年以内に、我が国の職業の半分程度はコンピュータ化される可能性があると考えられています。

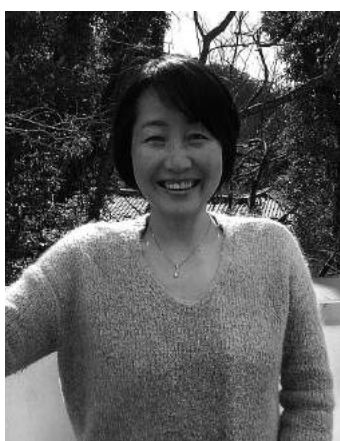
こうした変革期には、ヒトが設定した規則的な枠組みを越えられないAIを手段として使いこなし、不連続なイノベーションを、あるいは、多様なヒトとのリアルなコミュニケーションから、感動という新たな価値を生み出すスキルが求められます。政府では、現在、論理的思考力を育むプログラミング等の情報科学関連分野のカリキュラムやアクティブラーニング手法の採用・充実、キャリアを中断した女性や一線を退いた高齢者の方を含め、幅広い世代の学び直しを支援するリカレント教育の拡充等に向けた検討が行われていますが、そうしたヒトづくり施策の主役は、あくまでも一人一人の個人です。

「人生百年時代」にあつては、大学まで教育を受けた後、新卒で企業に採用され、定年で現役を終えたら静かに老後を暮らすといった、単線型の生涯設計を見直し、個々のライフ

スタイルに応じたキャリア選択を行って、新たな舞台で求められるスキルを身に付ける。つまり、生涯を通じて学び直しを続けるという姿勢が重要になってくるのではないのでしょうか。

以上、私見を交えながら、近況報告をさせていただきました。旧来の社会構造を前提として、同じ形・大きさの石を単純に積み上げていく作業は、早晚行き詰まってしまいます。異なる

## かけがえのないもの



朝五時半、目覚ましが鳴る。眠い時期なのだ。もう少し寝かせてあげよう。彼女は二五歳。春から高校一年生だ。

高校時代、私は水泳部に所属していた。夏の朝練。七時にプールに到着すると、朝の澄んだ空気の中、先輩方は静かな水面を黙々と掻き進んでいる。

「親単は覚えた。ページを破って飲み

形・大きさの石を丁寧に積み上げてこそ、その構造は揺るぎないものになるのだと思います。かつてインドのマハトマ・ガンジーは、「永遠に生きると思つて学べ (Learn as if you were to live forever)」と言われました。自戒の念を込めてということになります。が、「自強不息」を校訓とする岐阜高校に籍を置いた者として、それぞれの立場で、ともに頑張りましょう。

## 佐藤 陽子

込むのが伝統だ」と実演した先輩。「辛いことがあつた時はがむしやらに泳いで忘れる。そして速くなれ」と声をかけてくれた先輩。新校舎への建て替えでプールは小さな石碑になったが、大切な青春の軌跡が校舎の片隅に残されたことは本当にありがたい。

勉強は難しかったが、先生方とのやりとりは想い出深い。数学の内川先生は、「おい、高井。サイン・コサイン公式覚えたか。もがけ! もがけないかん!」と廊下で会ったたびに公式を問いつ、時に校庭を走らせた。そんな先生のスタイルは余りに熱く心に残るものだった。英語の江崎先生の時間には、宿題を忘れ教室の真ん中に一人で立たされながら長いお説教を受けた。しか

し授業後の職員室では、先生は思いがけない優しい言葉で励ましてくださった。

高校卒業後、英文科に通ううちに、海外で英語を学びそれを生かせる職に就きたいという気持ちが高まった。留学生として渡米後、現地の商社で就職が決まり、三三歳まで暮らした。帰国後は、東京で外資系証券会社に就職し、一人娘が五歳の時、東京から神奈川に引っ越した。

昨年、同じ関東圏に住み、一児の母である同窓生に思い切つて電話してみた。年賀状を交わすこと三〇年。彼女のお宅にお邪魔すると、大学生の息子さんの写真を見せてくれた。受験を目前にした高三の頃、私たちは毎日一緒に弁当を食べていた。一〇代の友が母となり、立派に子どもを育て上げたことがとても嬉しかった。私たちはお互いのそれまでの人生や家族の話をし、再会を誓った。

さて、これから高校時代を迎える我が娘は、二分の一成入式で「先生に教えてもらつて算数がよく判るようになったから、小学校の先生になりたい」と語り、その二年後の卒業文集では「精神科医になり、困っている人々の支えになりたい」と綴っていた。

普段の生活を見ていると、お洒落

して友達と街へ出かけたり、ライブに  
いって弾けたり、随分と青春を謳歌し  
ているようだ。勉強時間が足りないの  
では、と不安に感じることも多いが、  
得意な教科で好成绩を残そうと燃え  
ているようなので、できるだけ口を出  
さずに見守る努力をしている。

六時。弁当と水筒はでき上がった。  
六時二〇分、娘を乗せて駅へ向かう。

朝はなにかと不機嫌で、何を聞いても  
反抗的だ。六時四〇分、始発列車の  
待つ駅に着く。改札に向かう娘の制服  
姿は遅い。

青春の一瞬一瞬を楽しみながら、己  
の力で人生を切り拓くべく、親を越え  
師を越えて、その道を進む。  
たくさんの愛に囲まれて、いつかど  
こかで花咲く自分を信じて。

## 子育てのリレーのバトンを渡す 志田 美智代



私たちが岐阜高校を卒業してから  
あつという間に時は経ち、気付いたら  
私たちの子どもが次の世代を産み出  
てる時代になっています。

覚えていますか？ それとも今も  
胸に置いているでしょうか？ 自分の  
子どもにはどんな子に育ってほしかっ  
たでしょうか。そして願っていたこと  
は子どもに伝わったでしょうか。伝

わっているでしょうか。

子どもたちを思い通りにしたい。そ  
れとは異なります。子どもは自分の持  
ち物ではないので、親としての願いを  
持つてはいても、その通りにさせるも  
のではありません。それは、私たちも  
それぞれがいろんな青春時代を過ご  
していくうちに、大人や親に反抗した  
りして生きたときもあつたでしょうか  
ら、わかると思います。

今度の子育ての担い手は、さらに  
その子どもたちです。私たちの変えて  
はいけないバトンを新しい形で手渡し  
という必要もあるでしょう。受け取っ  
たバトンをそのまま渡すだけでは済ま  
ない時代になっています。未来を担う  
人が育っていくように将来のバトンを  
ちゃんと渡せるように、バトンの渡し

手と受け取り手が準備も状態もOK  
である状態が必要なんですよね。岐阜  
高校は、あの時も今も、ずっとその名  
前だけで存在感を十分出しています。  
そしてその時その場で過ごした仲間た  
ちは、岐阜だけでなく日本や海外でも  
活躍しています。この誇りはずっと持  
ち続けると思います。

私自身が仕事の形は変わりながら  
も教育現場に二三年以上関わり、の  
べ二万七千人の子どもたちをみてきて  
思ったことがあります。

今でも岐阜高校は、親にも子にも  
憧れの学校であり、そこを目指す子  
どもたちには自学自習ができる子や  
夢や目標をもつ子が多いです。それ  
でも子どもたちの周りの環境が、大  
きくしかも速く変わってきています。  
学歴だけではない、ということです。  
既に誰もが知っている人工知能にい  
ろんな分野でとって代わられること  
が多く、かつては資格としてあつた  
仕事もあつという間になくなる時代  
になりました。

それでも、当然ですが、全部が全  
部なくなるわけではありません。人  
にしかできないことは残るのです。  
これから残っていく人として必要  
とされていることの中に、コミュニ  
ケーション能力やプレゼンテーショ

ン能力などが挙げられます。今は、  
情報はどうやって取っているでしょ  
うか？ ネットから気になるものを  
クリックして取る、そんなことが多  
くはないでしょうか。今では以前よ  
りも少なくなってきたようですが、  
新聞などの情報から自分で必要な情  
報を選択すること、そして自分の意  
志で選んでいることを自覚すること。  
人の言葉に影響されてではなく、自  
分で決めていくのです。

私たちが岐阜高校で過ごした時代、  
完全に受け身で授業を受けることは  
できませんでした。当時、そのニッ  
クネームを言うと、どの先生なのか  
誰かが分かるくらい個性の強い先生  
方が私たちを絞ってください、その  
おかげでただ「授業を受ける」とい  
う受け身の姿勢ではいられないこと  
を、嫌でも教えていただけました。(イ  
ヤ、これは嫌みな書き方ではありません  
せん)その「手をかけずに目をかける」  
姿勢こそが、今もこれからずっと  
子育てに大切なことだと思つています。

子育て四訓——「乳児はしっかりと  
肌を離すな」、「幼児は肌を離せ手  
を離すな」、「少年は手を離せ目を離す  
な」、「青年は目を離せ心を離すな」  
これら四つの言葉は、その時々の子  
どもの状態に応じて本当にぴったり



の言葉だと思えます。今もこれからも変わらない大切なものはそのままに、次の世代に引き継ぎたいという

## 五〇にして、宇宙開発五〇年、 岐高一五〇年を思う

滝口 太

卒業後、岐阜を離れて三〇年以上が過ぎ、同窓生との連絡も積極的には取ってはいないため、数年前までは行方不明扱いになっていたのではないかと思いますが、二年前に在京（首都圏）同窓会の当番学年となったことをきっかけに、多くの友人と再会し、このような場をいただけたことに深く感謝しています。

昭和六〇年卒の方々は男女を問わず、少なくとも五一歳に達しているはずで、半世紀を過ぎ、子育てから親のケア、職場でのマネジメント、さらには独立起業等々、獅子奮迅の活躍をされていることと想います。一方で、自身の健康の心配もしなくてはならない

思いを込めて今回寄稿させていただきました。

年齢となりました。皆様これからもぜひお身体をご自愛ください。

私は、大学卒業以来、縁あって宇宙開発の仕事に携わり、現在はJAXA（宇宙航空研究開発機構）に勤務しています。自身は半世紀を過ぎましたが、日本の宇宙開発もちょうど半世紀を迎えようとしています。アポロ月面着陸の年（昭和四四年）以降、日本は本格的に宇宙開発に着手し、その翌年には初めて人工衛星を宇宙空間に投入し、世界で四番目の成功国となりました。アポロはずっと遠い昔のこと、とされた歌もありましたが、今、振り返ると、あつという間の五〇年であり、私が実際に携わったこの四半世紀は、国産技術の確立と実用化・ビジネス化への発展という難所の時期でもありました。東海地方は航空宇宙産業が盛んであることから、様々な形で宇宙技術の発展に尽力されてきた岐高OBの方々もおられることと想います。私

自身は、入社後二年間ほどの種子島現地勤務でロケットの打上げやエンジンの燃焼試験を経験し、ちょうど国産大型ロケットのデビューに遭遇することができました。その後、通信衛星や観測衛星といった人工衛星の開発プロジェクトを担当するのですが、ロケットも衛星も技術の成熟には時間と経験が必要とすることを嫌というほど思い知らされました。私の在学時代は夢のスベスシャトルの時代であり、日本人宇宙飛行士も誕生しましたが、スペースシャトルですら大爆発事故を二回起こしており、最終的には引退することとなりました。そのようなことも含め、日本の宇宙開発技術が、事故・不具合の連続だった時期を乗り越えて国の基幹技術として欧米とも肩を並べられるようになった今日を思うと、それほど愛校心があったわけではありませんが、「国家のために明け暮れ学ば」、「百折不撓つとめて止まず」のフレーズが思い起こされます。

今年、ちょうど明治一五〇年にあたることから、今一度、近代国家形成の取組みを思い起こし、日本の強みを再認識するという活動が行われているようです。学制にルーツをもつ岐高も概ね一五〇年を迎えると

ころ、校訓が脈々と受け継がれ、今日の日本や岐阜県を築いた先達の方々を多く輩出し、強さを伝統として持ち続けています。その一方で、今もなお、岐阜県を代表する学校としてあり続けているのは、常に変革があるからだと思えます。数年前、娘が土浦一高に通うようになり、伝統校としての雰囲気（特にファッショナブルとはいえない制服）や公立校の雄としての立場が岐高に大変似ていることから、ふと自分の在学時代を思い出し、遅まきながら初めて岐高のホームページをのぞいてみたところ、イメージが大きく覆りました。校舎は近代的なデザインに刷新されており、昨年は科学の甲子園で全国優勝されるなど、現役岐高生は明治一五〇年ではなく、平成三〇年の今の時を活躍しておられました。さらに来年は新しい元号となり、三年後には大学入試に新制度が導入されるなど、これからも新たな変革がなされていくことでしょう。茨城の地から岐高の益々の発展を祈っております。

最後に、宇宙開発の一〇〇年後を思うに、今、国の事業として五〇年を迎え、明治さながら一つの区切りが来ているように感じます。実際の

ところ、世界的に民間主導の宇宙事業が始まっており、ロケットの再利用、衛星の小型化・分散化、急速に進化するIoTと結び付いたサービス・アプリケーションといった変革が起きています。基盤を築き変革を生み出し、またこれを新たな基盤として次の変革を生み出すことの繰り返しによって、一〇〇年後の存在が

維持できようかと思えます。私自身はあと一〇年で定年となり、今手掛けている衛星プロジェクトを確実に成功させることに全力を尽くしている毎日ですが、次世代の宇宙開発を担う「自強不息」の変革者が岐高から一人でも多く誕生し、無限の宇宙に挑戦してくれることを心より願っております。

## 人生の岐路

富田 美穂子



現在、私は松本歯科大学にて教授として教鞭を執っております。しかし、それを中学・高校・大学時代の私を知る人の誰が想像できたでしょうか。

今から三七年前、岐阜高校に入学しましたが、特に人生の目標もなく、平和で平凡な生活ができればよいと毎日の生活を流していました。それ

に喝を入れてくださったのは、一年生の担任の江崎正徳先生でした。家で勉強をしていないことに関して、「何故勉強をしないのか」と、月一回必ず呼び出されて説教を受けたことを思い出します。今思えば、気にかけていただいた江崎先生に大変失礼なことをしていたと謝罪したいです。しかし結局、二年生、三年生になってもその生活態度は変わらず、当然私立大学にしか合格できませんでした。その時の担任の戸田先生から、歯学部もよいのでは、と後押しをいただき、自宅から3kmの朝日大学に入学することになりました。しかし、その後も努力という文字がないまま、大学を卒業しました。

ところが、二九歳の時、スイスの

ベルン大学に留学することになり、現地に着いた私は、生活のためにドイツ語を学ばざるを得ない状況になりました。現地のドイツ語学校に通うと、授業は全てドイツ語で行われ、日本人は一人だけという境遇で、ドイツ語を話さないと誰とも意思疎通ができませんでした。そんな中、アルバニア人、ロシア人などのクラスメイトがよく話しかけてくれ、何とか話ができるようになりました。他の生徒は、スイスで仕事を得るために語学学校に入り、一生懸命勉強していました。語学学校の授業は、例えばある絵を見せられて一五分間説明しなさい、というスタイルで、日本の講義とは全く違います。ある程度言葉に慣れてからベルン大学に研修に行く、大学の先生方は四か国語を話すのは当たり前で、数人の先生は七か国語が話せました。この国の患者は多人種であるために、病院内で語学は必修で、新しい言語は三か月で覚えろ、と若い先生が言われており、驚きました。そんな中、語学が苦手な私でも、一年もいると外国での生活に慣れてきました。

ベルンでは、ルームメイトのドイツ人が生活の仕方を教えてくれ、大学の先生は、治療のテクニックを教

えてくれました。ベルン大学の学生は国のトップクラスであるにも関わらず、留学生の私に質問をしてくる態度や、真面目に図書館で勉強する姿は忘れられません。大学の授業は、先生の話の合間合間に学生が質問をしながら進んでいく参加型授業でした。多くの外国人に接し、物事に対する考え方、熱意、真剣さを目の辺りにして、日本で自分が送ってきた生活をとても反省しました。その反面、素晴らしい自然に囲まれた環境の良いベルンの町、親切な外国人、そして明確に物事を言い合える社会の中での生活は、私にとって非常に快適でした。スイスでの生活が始まって二年后、この先もベルンで生活していくか帰国するかで随分迷いました。

散々悩んだ挙句、日本に帰国した私は、岐阜大学医学部の大学院に入学しました。高校でサボっていた分、当然基礎知識も低く、ベルンではドイツ語を主に勉強したため、再び英語という言語の壁に当たりました。しかし、三二歳になってそんな道を選んだ自分を応援してくれたのは母校の先生方で、その応援にええなくはと、この時点から私の辞書に「努力」という文字が出現してきたと思



います。それまでの努力がなかった生活の分をこの先の人生で取り戻そうと心に誓い、取り組みました。そして、大学院卒業後は、東京女子医科大学に就職し、その後現在の職場に移り、現職に至っております。

様々な環境の中、周りの方々の支援を受けたお陰で、今の私の生活があることにとても感謝しております。現在、歯科医師の国家試験は選抜試験になっており、受験者三五〇〇人のうち上位約二〇〇〇人しか合格することができません。そんな現状の中、私の使命は、本学の学生がより多く国家試験に合格するように導くことです。

岐阜高校の在校生の皆さんには、早めに人生の目標を決め、それに向うための勉強等をやるべき時にやっけてほしいと思います。明るい将来が待っていますから、今頑張ってください。また、留学の機会があればぜひ行って見聞を広めてみてください。私は、高校一年生から学習に力が入っていたら別の道を歩んでいたと思いますし、歯学部を勧められなければ別の職業に就いていました。また、帰国せずにベルンに住み続けていたら、今私は何をしているだろうと考えることもあります。若い皆さん

んには、多様な選択肢がありますが、その選択はとても難しく、またそれは後の人生に大きく影響を及ぼすでしょう。しかし、最後は自分の責任として何事にも精一杯立ち向かえば、何かが開けると確信しております。

私は紆余曲折した道を歩きました

## 人生は奇異(?! )なもの



長屋 由香里

が、スイスで世界中の人たちと出会った経験は、その後の人生によりよい影響を与えています。この先、平和な生活を送りつつも生涯研鑽を積み、教育者としてグローバルな人材育成に力を注いでいきたいと考えております。

な子どもたちがいます。

今、私は、若い頃には全く予想も想像もなかった人生を歩んでいます。現在、私は特別支援学校高等部の講師として仕事をさせていただいております。障がいを持った子どもたちと毎日接しています。大学を卒業後証券会社で一二年間営業の仕事をして、その間に教員だった夫と結婚しました。出産後、職場復帰をする予定でしたが、子どもの笑顔に負けて退職し、専業主婦の生活を送っていました。今、我が家には三人の元気

専業主婦となって八年程が過ぎた時、夫が脳出血を発症しました。出血量が多かったのですが、若さで助かった状態でした。そこから、子育てを楽しんでいた生活から夫の介護と子育てと家事に追われる生活へと一変しました。当時病気に対する知識が全くなかった私は夫が発症する前と同様に、楽しい生活がまた送れるようになる、と疑うこともなく信じ、夫のリハビリ中心の生活を送っていました。しかし、思った以上に脳の損傷は大きく、結局、左半身麻痺、高次脳機能障害で重度の障がい者となった夫は退職し、私は特別支援学校という職場で、もう一度社会に出て働くこととなりました。教員が家族にいたというだけで、学校の現場は全く知らずに飛び込んだ世界

でした。学生時代、教職には関心がなく、教員免許を取らなかった私が、お世話になっている先生の勧めもあり、四〇代の折り返しにさしかかっていましたが、教員免許を取得するため再び大学で学ぶという一大決心をしました。しかも、以前は経済学部でしたが、今度は人間福祉学科という全く違うフィールドで。

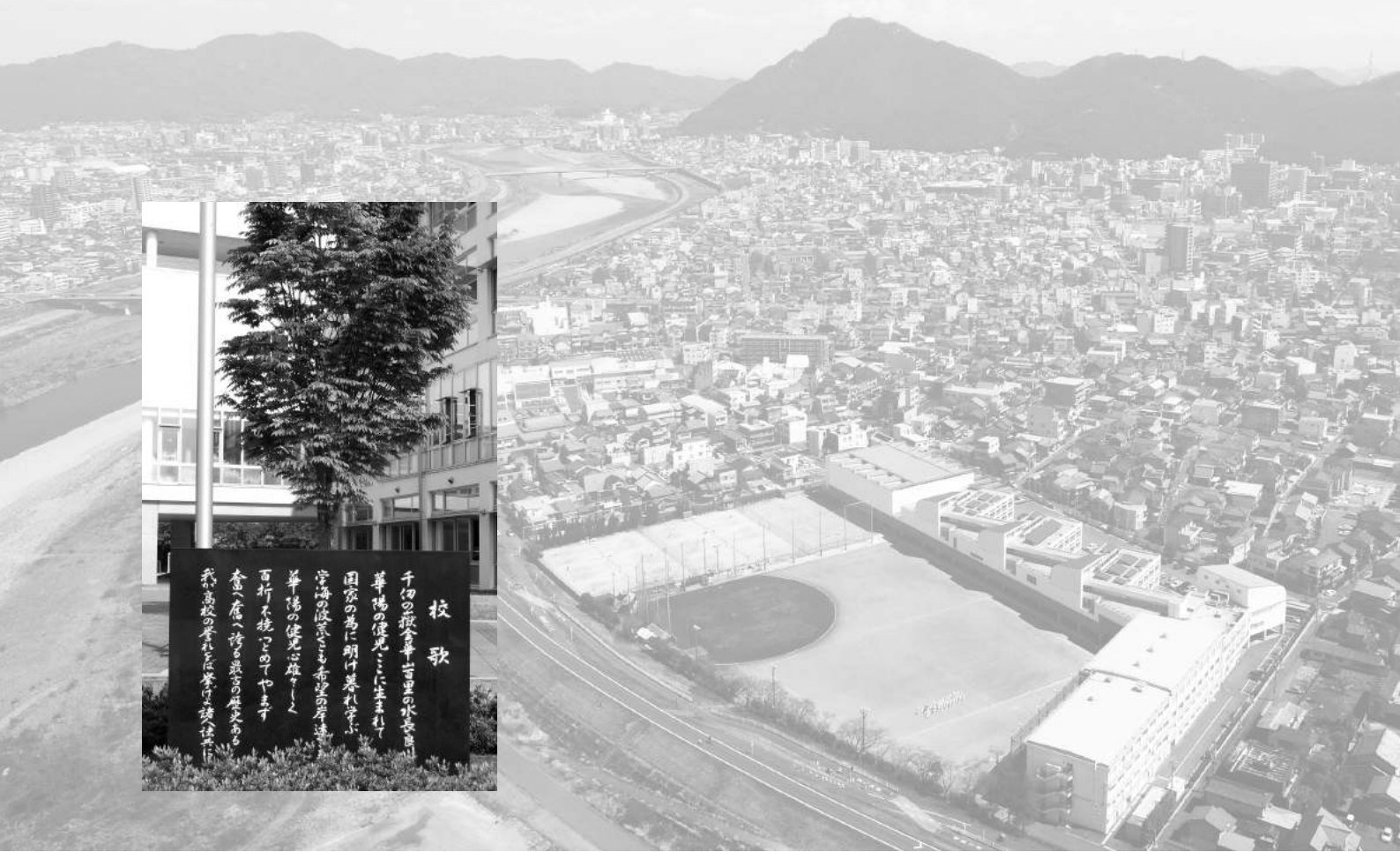
大学を卒業して以来、机に向かって勉強をするという習慣をすっかり忘れていた私が、ホントにできるの？と不安を抱えながら始めた学びでした。初めは仕事、家事、子育ての合間での勉強はペースが掴めず、集中力も続かず四苦八苦しましたが、徐々にペースが掴めるようになり、スクーリングを通じて、同じ社会人という立場で学ぶ友人もできました。また、勉強というものを再び始めたことで、忘れかけていた岐高時代のことを、「どうやって勉強してたっけ？」という疑問をきっかけに、いろいろと思い出す機会となりました。そういえば、「父が卒業した岐阜高校に私も行きたい、と憧れて進学した岐阜高校だったな」と。林間学舎、文化祭、体育大会…。日本史が大好きだった私は、水野先生の授業がとても楽しみで、授業を食い入るように聞いて

ていたこと、苦手な数学は追試を受  
けたり、金武先生の授業は緊張しま  
くり、温和な服部先生には放課後職  
員室で教えていただいたり、宮部先  
生の英語の毎回の単語テストもけっ  
こう大変だったな、といった数々の  
思い出が次々と蘇ってきました。当  
時の私は、ただただ周囲の仲間のレ  
ベルの高さに驚嘆し、それまでに経  
験したことのない新しい世界に強烈  
なカルチャーショックを受けたこと  
を今でも鮮明に覚えています。今は、  
その仲間と共に三年間を過ごすこと  
ができたこと、そしてその仲間がそ  
れぞれの世界で活躍されていること  
を喜び、誇りに思っています。

もう一度頑張れるはず、とプラス  
思考で、穴があつたら入りたいほど  
恥ずかしかつた教育実習も終え、無  
事に教員免許（福祉）を取得するこ  
とができました。私はおかげさまで  
以前は障がいや病気とは無縁な世界  
で生きておりました。しかし、思わ  
ぬ人生の方向転換で、仕事を通じて  
生まれながらにして障がいをもちて  
いる子どもたちから、人生の途中で  
大きな障がいを負った夫から、それ  
を支える家族という立場から、それ  
ぞれ多くのことを考えるようになり  
ました。家族が大きな障がいを負い、

今までできていたことが突然できな  
くなつたことで、悲しさやもどかし  
さ、時にはどうして?!と怒りを感じ  
たりしがちです。そのような中にお  
いても、仕事で関わっている子ども  
たちには、できることはもつと伸ば  
してやりたい、できないことはどう  
したらできるのかと第三者的な立場  
で冷静に手立てを考えようと努めて  
いる自分がいます。このように考え  
ると、第三者の存在はとても重要で、  
第三者の力があつてこそ障がいをも  
つ人たちの共生社会が成り立つの  
かな、と思います。障がい児・者が  
その人らしく生きることができ、誰  
一人として取りこぼされることのな  
い社会ができ、そこに少しでもお役  
に立てたらいいな、と思っています。

これから社会に出る準備中の岐高  
生の皆さんには、人の痛みや困って  
いる人に共感し寄り添える柔軟な心  
を育て、次世代の社会のリーダーにな  
ってほしいと願います。そうすれ  
ば、きっと皆にとつて生きやすく、優  
しい社会ができるはずです…。



# 音楽は時空を越えて

日時：平成二十九年二月一四日(木)

放課後

会場：岐阜高校・大会議室

## 出席者

吹奏楽部の部員

二年生 松岡真結子(部長、コントラバス)

水野うらら(副部長、バリトン・サクソフォン)

森田 有紀(副部長、パーカッション)

一年生 伊藤 優児(トロンボーン)

野崎 友花(アルト・サクソフォン)

同窓生 宮崎代里子(昭和五〇年卒、三味線奏者)

清水富士夫(昭和五〇年卒、司会進行)

**清水** 同窓会総会運営委員会の事務局を担当している清水です。今日は、これから一緒に練習をしていく者どうしがお互いに知り合うために座談会を設けようということになりました。テーマは「音楽は時空を越えて」です。楽しくお話ができたらと思います。よろしくお願ひします。

**宮崎** 音楽は世界の共通語と言われ、言葉が通じなくても理解できます。時間だけでなく、空間も越えてしまう素晴らしさがあります。

私がアメリカへ留学した目的は、英文科の学生でしたから、英語をもっと勉強したかったのもちろんです。当時は、映画の字幕スーパリーの翻訳家を目指していて、映画の中でも特にアメリカ映画が好きでした。例えばユーモアを訳すには、現地の言い方やスラングを知らなければできません。

文法や教科書の英語だけでは不足するというのでアメリカに行ったのです。

ところが、姉が嫁いだ後、岐阜に残って後を継ぐことになりました。東京を離れても通信教育があるし、翻訳の仕事は機会があれば、と思っっていました。が、映画の翻訳には戸田奈津子さんという人がいて、あの方が亡くならない限り名前は出ないよ(笑)という人もいて、そういう世界なんだと思いました。

日本舞踊も習っていたので、留学中に披露したことがあります。そうした文化交流で、他国の人たちは、自分たちの国の文化をすごく誇りに思っていることを知らされました。日本人の自分が果たして日本の文化を誇りに思っているかと言えば、そうじゃなかった。決まり事が多いばかりで、そんなに価値があるものとは見ていなかったのです。いわゆる井の中の蛙が大海に出て日本の文化の素晴らしさを知らされ、日本人としてもっているものをもっと大切にして、自分たちで継承していかねばと思うようになりました。

三味線については、高橋竹山という人を大学時代に知りました。彼は当時、労音(全国勤労者音楽協議会)で日本中に広めた一人でした。そこで帰国後に津軽三味線を習い始めたわけですが、日本舞踊の三味線とは全然違うわけです。長唄・端

唄・小唄のようなゆったりとした調子とは全く違い、激しく細かい。三味線でもこんなふうに弾けるんだと感動しました。

三味線の特徴として、ギターのようなフレットが無く、指で一点を押さえて音を出すという難しさがあります。指がほんの1ミリのずれでも音は狂うのです。そういう難しさがあり、弾く側は真剣です。それから、目の不自由な人が弾いていたので、譜面がありません。今は三線譜という楽譜がありますが、昔は、音を聞いて手取り足取りで覚えたのです。そういう歴史があります。だから、私たちも楽譜を見ないようにして弾きます。一曲を弾くために一か月で覚えられる人もいれば、長い曲だと一年、二年とかかることがあります。とにかく体で覚える。そういう楽器です。楽譜を見てその通りに弾くというようにはいかないのです。

採譜も勉強しました。津軽三味線の奏法を研究されていた飯田先生に習い、昔に録音されたものから楽譜を作ります。そうするとみんなに伝えやすくなるのです。加藤流家元の加藤先生は当時若い先生だったので、外国の親善公演にも積極的に参加されており、私もそれに同行しました。海外公演での反応は素晴らしいものでした。

津軽三味線は「日本のジャズ」と言われるぐらいで、即興性があります。よく「二にどつてん、



生徒は左から野崎友花、伊藤優児、森田有紀、水野うらら、松岡真結子

二に音澄み、三にじゃわめぐアドリブ奏法」と言われます。津軽三味線は義太夫と同じ太棹で、驚くほど大きな音が出ます。最初の「どってん」とは、大きな音で先ずは聴衆を魅了すること。次の「音澄み」とは、小さな音でも澄んだ音色を聴かせるということ。そして三の「じゃわめぐ」は、細かい演奏で心をかき立てることで、しかもアドリブ

性があるのです。

どんなものでもそうですが、続けるうちに奥の深さを感じるものです。私もそうでしたが、さらに伝統的な津軽の民謡と今の楽器とのコラボレーションも楽しむようになりました。はじめは、二胡とピアノとのコラボで、玉木先生（ピアノの先生）に三味線に合う曲を作ってもらいました。また、アルパ（南米の小型ハープ）とも共演しました。この前のコンサートでは、サククス四重奏とパーカッション、フラメンコギターともコラボして楽しかったです。

音楽についてはいろんな楽しみ方がありますが、皆さんの場合、先ずは一緒に演奏する楽しみでしょうか。一人よりも可能性が広がる楽しさがあると思います。

### 音楽と関わり、楽しむ

**清水** 「時空を越えて」というテーマについて二つの意味を考えています。一つは、年代が違っても話が合うということ。もう一つは、音楽を始めるのはいつからと決まっているわけではないということです。具体的には、私が音楽を始めたのは二〇歳を過ぎてからですが、宮崎さんは、大学のときに津軽三味線を知って魅力を感じ、帰国後に始められました。皆さんは中学や高校からですね。先ずはそのあたりからうかがいたいと思います。

**松岡** 二年生の松岡です。パートはコントラバスです。

**清水** 大きな楽器ですね。小さい頃から弾いてい

るんですか？

**松岡** いいえ、岐阜高校に入ってから始めました。吹奏楽部には高校から始めた女子が多く、身体がある程度成長してからでないと演奏ができないですが、高校から始めてプロになれる方もたくさんいらつしやいます。

**水野** 二年生の水野です。中学からサククスをやっています。バリトンサククスです。

**森田** 私はパーカッションです。私は高校から始めたので、まだ二年も経っていません。

**宮崎** ドラムもですか。

**森田** ドラムもマリンバも。いろいろな楽器をやります。

**清水** オーケストラの干手観音みたいな人ですね。

(笑) ティンパニもでしょうか？

**宮崎** あまり登場しないと

思いますが。

**清水** いえいえ、一番のポイントなんです。

**宮崎** そこを逃したらダメなんです。ポーンとしていると過ぎちゃう。瞬時のタイミングですね。

**森田** 私はティンパニが苦手なんです。

**清水** 伊藤さんは何ですか？

**伊藤** この中で唯一の金管楽器で、トロンボーンです。中学からです。

**清水** 野崎さんは、いかがですか。

**野崎** 私は中学からサククスで、中学の時はバリ



トンサククスでしたが、高校からアルトサククスになりました。

**清水** 花形になっちゃった、ということですね。

**野崎** どっちも花形だと思います。(笑)

**宮崎** アルトの方がメロディ楽器という感じでしょうか。でもバリトンも好きだわ、音が。

**野崎** ありがとうございます。

## 時を越えて伝わるもの

**清水** 宮崎さんはアドリブ(即興演奏)をやっていますが、皆さんは二百年、三百年前のクラシックなども演奏しますね。去年の同窓会総会では、バッハ作曲の「目覚めよと呼ぶ声あり」を演奏されました。バッハだと三百年前の曲をそのまま演奏しているわけで、それってやっぱり時空を越えているんですよ。

**宮崎** そうですね。(一同 納得)

**清水** あの時と今と、ピタッと合っているかどうかは分からないけれど、やっぱり、スコアがあつて、そのまま何百年かを経ても<sup>すた</sup>靡れていないのがクラシック音楽なのですが、こうしたことをどう思われますか。

**野崎** 何百年も前の作品を現代にそのまま再現することは、音楽以外では稀だと思います。楽譜という手段を使って、昔の音楽を自分たちが今再現できることこそ、本当に時空を越えていて、音楽の素晴らしさだと感じます。

逆に、現代に新たに生まれる音楽もあり、三味線とサククスの四重奏など、新しいものがどんどん

生まれにくるというのも、音楽にしかない良さなのかなと思います。

**清水** ありがとうございます。去年バッハを吹いた水野さんはどうでしたか。

**水野** 先ずは単純にいい曲だなと思いました。初めのうちは楽譜通り吹くことを意識しましたが、練習を重ねるうちに、ここはどう盛り上げていくか、この表現記号はどうしてここにあるのか、ということを追求するようになって、とても面白かったです。でもバッハはもう亡くなっていて本人には聞けないから、バッハがその時に考えていたことは違うかもしれないけれど、それを自分たち自身で考えて表現することに意味があると思います。

**清水** そうすると、例えば皆さんが僕たちの年齢になった時、同窓会の幹事になってかつての仲間とともに四〇年前の演奏曲をもう一度となつたらどうなると思いますか？ 楽譜はちゃんとありますよね。人生のいろいろな変遷を経て、表現力が深みを増しているかもしれません。

**松岡** 同じ人が演奏しても、絶対に違ったものになるということを感じると思います。音楽というのは、同じスコア(楽譜)からでもその時間、その空間、その時のメンバーによって演奏が変わるところが面白いなと思います。気持ち、技術、楽器が異なっていたり進化したり、演奏方法が新しくなったり…。一つの



曲を何百年も通して演奏していく面白さと、時間が経つにつれて演奏が変化していく面白さもまた、音楽にはあるのかなと思いました。

**清水** パーカッションの森田さんはどうでしょうか。

**森田** 私は同窓会では演奏していませんが、演奏を聴いていると時代の流れといったものが感じられ、すごいなと思います。私も四〇年後に音楽を続けているかどうかは分かりませんが、集まれるならみんな演奏したいなと思います。

**清水** そうですね。ずっとやってきた、四〇年後の人(宮崎さん)は、続けてほしいという気持ちがありますか？

**宮崎** 私も、こういう機会が無ければ現役の岐高生とお話することも無かったですよ。教育実習には来ましたが、まさかこういう形でまたここにお邪魔できるとは想像もしていなかったもので、本当にワクワクします。現役の皆さんとOBがコラボするという企画がまた素晴らしいですね。先日のコンサートには顧問の先生方が見に来てくださって、お祝いのお花までいただきました。また、清水さんからは柿の差し入れをいただきました。そうして応援してくださるのがとても嬉しいです。ありがとうございます。

音楽自体はもちろん楽しいのですが、それによって様々な人に出会えるとか、世界が広がるとか、外国に行つて現地の人に聴いていただき、「素晴らしかった」と言ってくれたいことが嬉しいですし、付随するものがとても大きいのです。一人で楽しむのも音楽ですが、音楽を通していろんな人と巡

り会ったり、コラボしたりしていく中で、すごく人生が楽しくなります。そういう意味で、職業でなくとも楽しみとして音楽はずっと続けてほしいですね。

## 人に伝わる音楽

**清水** 私は現在、本郷町にあるクララザールという音楽ホールで、運営と企画を担当しています。実は、六〇歳を過ぎてからなのですが、こんなに辛いものはないですね。(一同 笑い)

音楽で食べていくというのはすごく大変なことで、プロの人の生活にはやっぱり苦勞も多いようです。自ら選んでその道に行く人にとつてはいいのかもしれませんが…。

**宮崎** えっ！私だって全然食べていけてないです。(笑)

**清水** 皆さんの中にはミュージシャンを目指す人もいるかもしれませんが、学校の先生になったりお医者さんになったり、人それぞれです。人生の中で音楽をどのように位置付けるかということも大事なことでと思います。忙しい仕事の中で心を豊かにするものは何でしょうか。野崎さんはどうですか？

**野崎** 私の将来の夢は教師になることです。顧問という形で吹奏楽を教えていきたいという希望があり、中学や高校の先生になりたいと思っています。大人になっても、音楽は自分の中で大切なものだということは変わらないと思うし、私自身音楽に関わり続けていたいという気持ちから教師の道を考えています。音楽自体を職業にするのは難しいことだと

よく分かりますが、これまでも続けてきて、私にとつて吹奏楽は必要不可欠なものになっていきます。もし、違う職業に就いたとしても、何らかの形で音楽を続けられたらいいなと思っています。

**清水** そうすると、今の部顧問の先生(白木聖美先生と中村仁先生)は理想なんですね。中学、高校の時に音楽を始めて、社会人になって顧問になる。幸せなパターンだと言えますね。では、男性の伊藤さんに聞きます。

**伊藤** 高校に入る前、受験勉強をされていて疲れた時にピアノを弾くと、疲れを全部忘れられ、弾いている間は本当に楽しく感じました。心に安らぎを与えてくれるのがいいなと思います。ベートー



ベンやバッハの曲など、今も音楽は人の心を動かすのです。人の心はずっと変わらなもので、それも音楽のいいところかなと思います。

**宮崎** そうですね。昔はお抱え音楽家と言つて、貴族や王室が音楽家を雇い、自由に音楽を作つて演奏させました。当時の作曲家たちの中には、そうした幸運な環境で何不自由なく好きなように打ち込めた人もいます。

でも、ほとんどの人は、今も昔も、音楽は楽しみや趣味、仕事は生計を立てるための手段というように、割り切つて音楽活動をしていることが多いのではないのでしょうか。メディアに乗つて花開



いた人は、本当に一握りの、才能豊かで人脈など全てに恵まれた人だと思います。

しかし本来、音楽は楽しむもの、心や気持ちを伝えるためのもので、お金儲けのためのものではない。メディアに乗つて成功している人も、生活のためというよりは、(結果的に)それで生活ができるようになったということです。お金儲けを最優先にしてしまうと、いいものができないんじゃないかと思います。

**清水** もう一つの視点として、音楽は瞬間の芸術です。例えば五分の曲なら、その間だけの一回勝負ですよね。その五分のために何十時間もの練習を積むんですね。

**宮崎** 何十時間どころじゃないですよ。(一同 笑い)  
**清水** それも時空を越えていることになるわけです。時空を越えてたつた三分、五分のために練習するので。上手うまくいけばいいのですが、だいたいは反省することになるわけです。それもやっぱり時空を越えていると思います。

**水野** 本当にそうだなと思います。私たちにとつて今はアンサンブルコンテストの冬の大会の時期です。審査員や観客の前で披露するのは五分ぐらいですが、その五分のために何か月もかけて練習します。それでも、コンクールやコンサートでは失敗もします。

演奏する上で一番に考えていることは「聴いていただく人に届ける」ということです。絵画は鑑賞者が自由に何時間でも観られるけれど、音楽はその瞬間に、私たちの方から発信しないと、相手は座っているだけだから何も伝わりません。私た

ちはこういうイメージをもっているんだということが少しでも伝わればと思つて演奏しています。

**松岡** 音楽つて、聴く人がいて、その人に向けて演奏するために練習を重ねます。私は吹奏楽部に入つて初めて仲間と一緒に演奏するようになりました。そうすると、一人で楽しんでいた時には聞こえなかつた音が聞こえてきて、演奏活動を通して自分の中の変化に驚きました。練習だけでなく発表の場でも、音楽は自分だけの時間ではなく、聴く人の時間もいただく芸術だという話を聞いたことがあります。自分でもコンサートを聴きに行くことがあります、その時のような感動を自分たちも与えることができたらいなと思つて演奏します。その時、その空間でしか味わえないこと、その時の気持ちや体験が時を経てつながっていくところが素晴らしいと思います。

**清水** 演奏者と観客が空間を共有するわけですね。

**宮崎** だから、生演奏にはCDにないものがあります。私たちも演奏会に来ていただいて「すごく良かった」と言つてもらうんですが、臨場感のただと自分たちの意気込みや心が伝わるからですね。音を聴くだけならCDでもいいけれど、生で聴くというのは、どんな人がどんな曲をどんな思いで弾いているかという、CDでは味わえないものがあり、それを伝えようとして演奏します。

この前のコンサートでも、一年がかりで練つたものが僅か三時間で終わるんですから。曲を覚えて、教えて、弾き込んで、人前で演奏する練習もして、リハーサルを何回も積み重ねて初めてコンサートでちゃんと弾ける。しかし、それだけやっても、

本番の出来が三〇点だったということもあります。それでもやめられないのは、できた時の喜び、お客さんが「良かった」と言つてくださった時の嬉しさがあつてのことだと思えます。心が伝わるコンサートは本当に素晴らしいですし、だからいろんな人に伝わるのだと思います。

### これまでとこれから

**清水** 今回の企画を思い付いたのは、昨年六月の同窓会総会での皆さんの演奏が本当に素晴らしかったからです。何か一緒にできないかと考え、宮崎さんと吹奏楽部でコラボをしよう。それなら曲は何がいいかと考えました。森田さん、パーカッションも活躍する曲ですよ。

**宮崎** 三年後にまたコンサートをやりたいと思つています。オリンピックイヤーコンサートという企画です。岐高生にも来てもらつてできたらいいなと思います。でも、(皆さんは)三年後の岐阜高校にはいないですね。

**生徒** OG、OBで、飛び入り参加で！

**宮崎** その時まで続けてね。

**清水** でも、大学へ行つても続けられる人つてなかなかいないですね。

**宮崎** 大学では続けられるんじゃない？

**清水** 歌の世界では、高校で一生懸命歌つていても大学に行つて続ける人はあまりいないのです。

**宮崎** そうなの？ 楽器つて一回買うとずっと練習できますよね。声なら、なおさら問題ないでしょう。

**清水** そう。これが一番お金がかからないのに。

さて、これからの抱負をお聞かせください。松岡さんは、来年は三年生になるんですね。

**松岡** はい。三月に定期演奏会があり、それが終わると二年生はほとんど引退するので、それまでに私を感じてきたことを後輩に伝えたいと思います。

**清水** 音楽をどういう形で続けていきたいですか？

**松岡** そうですね、大学でも続けるお話が出ましたが、私はパートがコントラバスなので、オーケストラだと続けやすいですし、楽器を貸していただける所もあります。今の活動で感じたことを大人になつても忘れないようにしたいです。音楽を聴く楽しみと、仲間ですつてきた思い出。これからも続けられたいなと思えます。吹奏楽部で音楽を通して自分は成長できたし、仲間との絆も深まりました。そういうことを後輩に伝え、自分が引退した後は何らかの形で後輩を支えていきたいです。

**水野** 私は、音楽という言葉の起源について考えたことがあります。楽器をやっているか否かに関係なく、地球上の人は皆、音楽をやっていると思います。この座談会の中でも、音楽は音を楽しむことだというお話が出ました。私は、楽器を吹いていない時も音楽をやっているなと思つています。

最近行われたサックス四重奏のコンサートで、ある曲を聴いたとき、感動して涙が出ました。そのとき「ああ、音楽つて素晴らしいな」と思いました。今私たちは音楽を発信する側にいます。だから、アンサンブルコンテストや定期演奏会では、多くのお客さんに「私たちはこういう音楽をやっています」ということを伝えたいです。そして、

涙を流してもらえそうな感動を与えられたらいいなと思います。

音楽はどこで何をしても作れます。机を叩いても楽しめるものだと思います。大人になってからも、何らかの形で音を楽しめたらいいなと思います。

**宮崎** 私たちは、ボランティアでデイサービスに行つて演奏させてもらうのですが、感動して泣いてくださる方もいますよ。本当に泣き出すんですよ。

**清水** 僕もデイサービスで童謡を歌うと、おじいさん、おばあさんが泣き始めます。

**宮崎** それを見てこちらが逆に感動しちゃいますね。

**清水** 泣かれますね。特に童謡を歌うと泣く人が多いです。

**宮崎** 思い出すのかな。昔のこととかを。

**園部** 僕なんか、今でも童謡聴くと涙が出ますよ。

(一同 笑い)

**宮崎** もうそんなお歳ですか？(笑) いい曲はいつ聴いても泣けてきますよね。

**森田** 部活動ができるのはあと三か月なので、定期演奏会に向けて精一杯頑張りたいと思います。大学でもパーカッションを続けたいと思います。音楽で食べていく自信はないので、生涯を通していろんなコンサートに行けたらいいと思っています。吹奏楽やオーケストラだけでなく、ジャズやJ・POPもたくさん聴いて耳を養いたい。そして音楽と一生関わり続けていきたいと思っています。

**伊藤** 三月で先輩方が引退されてしまうので、残りの三か月間で先輩方の素晴らしい技術や行動の

姿を全部吸収しなくてはと思っています。そして今度は自分が

ちが岐阜高校吹奏楽部の先輩として活動を頑張っていきたいと思います。定期演奏会をはじめ、各種のコンクール

では、聴衆の皆さんと音楽を共有したいと思っています。演奏者と聴く人の気持ちが一一致

る、僕たちが美しい音を出すと、お客さんも美しいと感じてくれるような、ホールが一体となる音楽を表現できたらいいなと思います。

高校卒業後も日常的にピアノ演奏や音楽鑑賞をして、いろんな音楽に触れて…。これからも生活の中に音楽を取り入れていきたいと思っています。

**野崎** 部活動で先輩方と一緒に演奏できる残り時間が少なくなってきたことを実感しています。私は、中学生の時に岐高の吹奏楽部の演奏会を聴きに行き、この部活の雰囲気がいいなと思って岐阜高校に入りました。岐高の伝統が受け継がれてきて今の吹奏楽部があるということを感じますし、伝統の中でその時々個性があるということには感動も覚えます。来年には後輩が入ってくるので、ともに自分たちの音楽を創っていきます。先輩たちの良い部分を受け継ぎつつ、自分たちのやりたいうことをやって、それで人の心を動かすことができたら素晴らしいと思います。

私は音楽全般が好きで、いろんな楽器を集めたんです。自分がこれまでに触れた音楽だけでなく、まだ知らない音楽についてももっともっと知りたい



です。

**清水** 皆さん頑張ってください。私の娘は岐高の吹奏楽部でトロンボーンを吹いていました。今でも「ボーン会」と言つて、OBが集まって飲んです。大学を出て社会人になってからも岐高吹奏楽部の人はすぐ仲がいいと聞きます。皆さんもそんなふうになつてもらえるといいですね。

**宮崎** 吹奏楽部のOB会ってないんですか？

**松岡** あります。楽器ごとにもあります。コントラスバスは人数が少ないのですが、夏は毎年コントラスバス会をやります。OBを含めても一〇人ぐらいですけど。

**宮崎** それはいいことよね。

**清水** そろそろ時間になりました。ご協力いただきまして、ありがとうございました。



部顧問の中村 仁先生(左端)、白木 聖美先生(右端) とともに



# 高岐高だより

第127号

平成 29年 5月 12日  
岐阜県立岐阜高等学校  
PTA会長 早川 徹  
印刷/柳西清プリント  
題字/筑間 敏博

## CONTENTS

- 受け継がれる「百折不撓・自彊不息」 学 校 長 ……p1
- 大志を育もう！ PTA会長 ……p2
- 平成29年度PTA総会 PTA副会長 ……p2
- 「生命の安全に留意し、充実した学校生活を」 生徒指導部 ……p3
- 高校生活は一生輝き続ける。 進路指導部 ……p4
- 平成29年度 進路指導計画 ……p4
- 平成29年度 大学入試結果 ……p5
- 各学年団紹介 学年主任 ……p6-7
- 海外研修を実施 キャリア形成支援部 ……p7
- 6・7月行事予定 教 務 部 ……p8
- 部活動だより 特別活動部 ……p8
- 平成29年度 教職員人事異動 教 務 部 ……p8



対面式



第6回科学の甲子園全国大会優勝！（128号にて特集）

## 受け継がれる「百折不撓・自彊不息」



学 校 長  
南谷清司

桜の花が咲き誇る四月十日に平成二十九年度岐阜高校入学式を挙行し、三百六十一名の新入生を迎えました。厳しい入学選抜の試験を乗り越えて入学を果たした新入生は、これから始まる本校での三年間を前に、緊張と不安と、そしてそれを振り払えるほどの大きな希望を胸に、確かな歩みを始めようとしています。創立百四十四年という本校の伝統に対して敬意を払うとともに、岐阜高校の生徒であるという自信と誇りを持って、有意義な高校生活を開始してくれるよう願ってやみません。

さて、高校生活は人生の中ではほんのわずかの年数ではありますが、身も心も大人へと成長していく最も大事な時期であり、しかも将来の進む道を決めるにあたって重要な意味を持つ三年間でもあります。このように大切な三年間の道標が校訓「百折不撓、自彊不息」です。

「百折不撓」の「百折」は百回も折れる、つまり何度でも挫折することを、「不撓」の「撓」は挫けることで、「不」が付いて挫けないことを、また「自彊不息」の「彊」は努めるとか、励む、頑張ること、「不」は自ら努める、自ら励むことを、「不息」の「息」は止めるとか終わるといふことで、「不」が付いて止めないことをそれぞれ意味しています。

昨年度末に、本校の生徒が「科学の甲子園全国大会」に岐阜県代表として参加しました。この大会は各校八人のチームで互いに協力しながら、理科、数学、情報などの筆記試験や実験と考察、さらにはロボット製作などのものづくりにも挑む、知識技能のみならず「コミュニケーション能力も含む幅広い力が試される競技です。そして、本校生徒は持てる力をいかになく発揮し、大会の強豪校を打ち破って全国の頂点に立ちました。全校がこの快挙に感激し、喜びに包まれました。

これまで先輩たちが何回も出場し優秀な成績を収めてきましたが、残念ながら全国の頂点には手が届きませんでした。そして、次こそは全国の頂点へという強い思いと全国の頂点を目指した努力が、先輩から後輩へと受け継がれながら積み重ねられてきました。まさに本校伝統の校訓「百折不撓、自彊不息」、幾度失敗しても志を曲げないこと、自ら努め励んでやまないこと」が先輩から後輩へと脈々と受け継がれ、その精神が毎年の努力の積み重ねを支え、そして見事に全国優勝という花を開かせてくれました。

岐阜高校で学ぶ全ての生徒が、科学の甲子園のみならず、模擬国連、アメリカ東海岸研修、さらには大学受験や部活動など、様々な場面での先輩や仲間との活躍に励まされ、校訓「百折不撓、自彊不息」を胸に充実した高校生活を送ってくださることを願っています。そして、教職員一同、精一杯の支援をさせていただきます。

保護者の皆様におかれましては、どうか今まで以上に本校の教育に対し御理解御支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 第六回科学の甲子園全国大会で優勝 サイエンス・オリンピアド全米大会に参加

三月一七日(金)～二〇日(月)に行われた第六回科学の甲子園全国大会で、本校のチームは念願の優勝を果たし、サイエンス・オリンピアド全米大会二〇一七に招待参加しました。

## 第六回科学の甲子園全国大会

今年も茨城県つくば市のつくば国際会議場とつくばカピオで第六回科学の甲子園全国大会が行われました。つくば市で行われるのは三年目で、次回からは埼玉県さいたま市で行われることになっています。

二年生の八人が岐阜県代表として出場し、筆記競技、実技競技①、同②、同③で全国のチームと競い合いました。

今回は、筆記競技(全一二問)が本校として過去最高の得点であったことと、実技競技③の「ほんえい競争iroつくば」で優勝したことが総合成績に大きく寄与しました。

優勝だけが大会に出場する目的ではないもの、これまでに何度か惜しくも優勝を逃してきたのは事実で、生徒は、過去の出場者から受け継いだ気持ちを大切にして、校内外での学習会に地道に励み、

努力を結実させました。



科学の甲子園会場にて

## サイエンス・オリンピアド

### 全米大会二〇一七

大会は、五月二〇日(土)と二一日(日)にオハイオ州デイトン市にあるライト州立大学で行われました。

この大会では、合衆国の全ての州から選ばれた六〇校のチームが二三の競技に臨みます(複数の学校が選ばれた州があり、州の数より学校の数が多くなっています)。日本から招待されるチームは四つの競技を選んで参加することになっており、本校が参加した競技の概要と成績

は次の通りでした。参加者の氏名とともに掲げておきます。

### 〔参加者の氏名〕

- 高井 万葉 (三年一組)
- 桐原 聖子 (三年二組)
- 豊田 将宏 (三年二組)
- 瀬古 紘之 (三年三組)
- 高島 優 (三年四組)
- 坂本啓太郎 (三年五組)
- 坂 駿之介 (三年五組)
- 西村 直樹 (三年六組)

### 〔参加した競技と成績〕

Forensics (犯罪科学)	二二位
Game On (プログラミング)	二八位
Helicopters	五五位
Write It Do It (指示書)	二二位

サイエンス・オリンピアドの競技は、参加しなかった競技も含めてどの競技も、知識を断片的な記憶で終わらせることなく活かして使うように設定されており、複合系やものづくり的な要素を含む競技が多いことが最大の特徴で、参加者には多様な興味と能力が求められます。

三月に全国大会で優勝した八人の生徒は、新学期もそこに早速準備を始めました。それは語学研修から始まり、出



サイエンスオリンピアド：フロリダ州代表校と

場する競技が決まってからは、県警本部や県博物館など校外の専門家の方々のご協力と激励をいただき、直前までご指導を受けました。結果は、やや条件が異なっていた Helicopters を除いて、全米の三分の一に入り、手応えを実感するとともに、自信を深めました。しかしそれよりも、多くの高校生と交流し、大きな成果が得られたと一同思っています。

会場となったライト州立大学はライト兄弟の名前を冠した州立大学で、工学部と航空宇宙医学での開発研究、俳優のトム・ハンクスが寄贈した映像技術の研究所などで知られています。我々は、開会式の前日、動力飛行の先駆者として知られたライト兄弟が飛行機の研究を始める前に仕事をした自転車会社、国立米空軍博物館をそれぞれ見学し、デイトンの歴史についても学びました。

体育系

部名	活動・試合結果など
硬式野球	第99回全国高等学校野球選手権岐阜大会 二回戦 対 東海大 3-7 平成29年度秋季高等学校野球大会岐阜地区予選 対 岐阜城北 1-0 対 岐阜商 12-7 対 岐阜北 7-5 対 岐阜各務野 1-4 平成29年度秋季高等学校野球大会 一回戦 対 飛騨高山 0-3
陸上競技	平成29年度県高校新人大会 男子 岩田 (1年) 3000SC 第4位 木野 (1年) 400H 第3位 浅野 (1年) 標高跳 第4位 女子 太田 (2年) 3000m 第1位 1500m 第6位 (東海高校新人大会出場) 平成29年度県高校駅伝大会
サッカー	岐阜地区高等学校総合体育大会 ベスト4 1回戦 岐阜 4-0 聖徳 2回戦 岐阜 3-2 羽島北 3回戦 岐阜 0-0 坂山(3PK4) 全国高校サッカー選手権岐阜県大会 ベスト16 3回戦 岐阜 2-1 土岐商 4回戦 岐阜 1-4 大垣日大
バレーボール	岐阜地区総体 男子 1回戦 岐阜 2-1 岐阜北 2回戦 岐阜 0-2 岐阜聖徳 結果 ベスト8 女子 1回戦 岐阜 2-0 各務原西 2回戦 岐阜 0-2 岐阜商 結果 ベスト8 全日本バレーボール高校選手権大会 男子 1回戦 岐阜 2-0 多治見 2回戦 岐阜 0-2 郡上 女子 2回戦 岐阜 0-2 郡上
バスケットボール	平成29年度県高校選手権大会 男子 2回戦 岐阜 93-55 大垣南 3回戦 岐阜 80-60 帝京大可児 4回戦 岐阜 55-84 大垣工業 ベスト16 女子 2回戦 岐阜 71-44 大垣北 3回戦 岐阜 59-60 多治見西
ソフトテニス	岐阜地区総体 団体戦 男子 準優勝 女子 ベスト8 県新人戦 団体戦 男子 ベスト8 女子 ベスト16
水泳	東海高校総体出場 個人 背泳ぎ 横山 (3年) 小澤 (3年) 向田 (2年) 平泳ぎ 安江 (2年) リレー 吉岡 (2年) スプリント大会 200m男女混合リレー 岐阜県高校新記録樹立 安江 (2年) 吉岡 (2年) 向田 (2年) 武山 (2年) 200m男女混合メドレーリレー 岐阜県高校新記録樹立 安江 (2年) 吉岡 (2年) 向田 (2年) 小川 (1年)
卓球	東海大会出場 古田 (2年) 松尾 (1年) 岐阜地区高校総体 男女ベスト4
バドミントン	県新人大会 女子団体戦 ベスト8 女子個人戦 可知 (1年) ベスト8
柔道	岐阜県下高校柔道新人大会兼全国高等学校柔道選手権岐阜地区予選 男子個人 66kg級 ベスト5 永野 (2年) 73kg級 3位 小橋 (1年) 無差別級 3位 豊田 (1年)
剣道	第45回岐阜県高等学校剣道大会 男子 1回戦 岐阜 1-3 大垣商 女子 1回戦 岐阜 0-1 恵那 第56回岐阜地区高等学校総合体育大会 男子 1回戦 岐阜 2-2 岐阜農林(本数勝ち) 2回戦 岐阜 2-2 富田(代表戦負け) 女子予選リーグ 0勝2敗 男子個人 久世 (2年) ベスト16 第63回県下高等学校剣道新人大会 男子 1回戦 岐阜 2-2 各務原西(代表戦負け) 女子 1回戦 岐阜 1-3 大垣北
軟式野球	平成29年度 第56回岐阜地区高等学校総合体育大会 軟式野球の部 1回戦 岐阜 10-1 岐阜聖徳 2回戦 岐阜 4-3 岐阜商 《優勝》 平成29年度 第66回岐阜県高等学校軟式野球秋季(新人)大会 2回戦 岐阜 2-1 岐阜商 準決勝 岐阜 6-0 恵那農業 決勝 岐阜 2-8 中京院中京 《準優勝》 ※東海大会出場 第32回秋季東海高等学校軟式野球大会 1回戦 岐阜 4-3 緑(愛知1位) 準決勝 岐阜 2-4 静岡商業(静岡1位) 《ベスト4》
テニス	第56回岐阜地区高等学校総合体育大会 女子団体 準優勝 第45回岐阜県ジュニアテニス選手権大会 U17シングルス 豊吉 (1年) 優勝 強化合同練習会シングルス 女子シングルス 豊吉 (1年) 準優勝 平成28年度岐阜県高校テニス新人大会 男子団体 出場 女子団体 準優勝 ※東海大会出場 男子シングルス 奥村 (1年) 谷藤 (1年) 男子ダブルス 新開・小野木 (2年) 谷藤・澤本 (1年) 女子シングルス 奥村・今村 (1年) 出場 女子ダブルス 豊吉 (1年) ベスト8 植村 (2年)・豊吉 (1年) 出場
ハンドボール	堤杯岐阜県高校ハンドボール選手権 2部 1回戦 岐阜 21-7 不破 2回戦 岐阜 12-14 各務原西 岐阜地区高等学校総合体育大会 1回戦 岐阜 5-23 加納 県新人大会地区予選 1回戦 岐阜 8-11 長良

文化系

部名	活動・試合結果など
美術	全国総合文化祭(みやぎ総文)美術工芸部門 出品 秋田(3年)岐阜地区高美展奨励賞 第70回岐阜市美術展覧会 一般グラフィックデザイン 入選 廣瀬(2年) 県総合文化祭美術・工芸展 出品 廣瀬(2年)
書道	第41回全国高校総文祭みやぎ大会岐阜県代表 村木(3年) 第26回国際高校生選抜書展(書の甲子園) 団体=東海地区優秀賞 個人=秀作賞 村木(3年) 入選 馬淵(3年) 遠藤(3年) 鷺見(3年) 小森(3年) 清水万(2年) 清水彩(2年)
演劇	第65回岐阜県高等学校演劇岐阜地区大会 奨励賞
音楽	全国総文祭(みやぎ総文)合唱部門 出場 第84回(平成29年度)NHKコンクール岐阜県コンクール 銅賞 第57回岐阜県合唱コンクール (第70回全日本合唱コンクール岐阜県大会) 高等学校部門Aグループ 銀賞
文芸	全国総合文化祭(みやぎ総文)文芸部門 出場 岐阜県高等学校文芸部会交流会 参加 現在岐阜県文芸コンクールに作品応募中
茶華道	(茶道部)文化祭では1年生は盆湯点前で、2年生は薄茶点前で おもてなしをさせていただきました。 (華道部)文化祭にて華道則天門による生け花展を行いました。
自然科学(生物)	第7回バイオサミットin鶴岡 環境大臣賞(全国第1位) 第41回全国総合文化祭 自然科学部門 奨励賞(全国第3位) 研究発表「守れ!ふるさとのカスミサンショウウオ」 ~GISと環境DNAを用いた新発生地の発見~ 第26回岐阜県高等学校総合文化祭 自然科学系部活動研究発表交流会 最優秀賞(第1位、来年度の全国高等学校総合文化祭への出場が内定) 研究発表「守れ!ふるさとのカスミサンショウウオ」 ~GISと環境DNAを用いた生息地の未来予想~ 第2回東海地区理科研究発表会 最優秀賞 研究発表「岐阜県オオサンショウウオの多角的調査・解析 ~遺伝子解析によるテウコクオオサンショウウオ侵入の監視~」
自然科学(物理)	サイエンスキャッスル2017 関東大会 口頭発表「お盆のような月の輝きに迫る」 田島 怜一郎(1年)
自然科学(化学)	第26回東海地区高等学校化学研究発表交流会 優秀賞(東海地区1位) 討論賞 野澤佑太(2年) 大野隼(1年) *上記の結果により、3月の関東地区研究発表交流会に招待参加します。
ESS	ボランティアスピリット賞 コミュニティ賞受賞 (鶴岡通訳ボランティア) 第2回岐阜県高校生英語プレゼンテーション大会 優秀賞校 ベストプレゼンター賞 豊田(1年)
調理	第8回岐阜県もん創作グランプリ 「米粉おにぎりパン~大好きな地元、岐阜の味~」 中日奨励賞 榎橋(2年) 岐阜祭では、冷たいデザート3品(白玉あんみつ、抹茶プリン、 カクテルゼリー)の販売を行いました。
写真	平成29年度岐阜県高等学校写真コンテスト 奨励賞 木村(2年) 今井・長谷川(1年) マイフォトギャラリー 1位 若原(2年) 3位 安藤(2年)
囲碁・将棋	平成29年度岐阜県高等学校総合文化祭囲碁新人大会 男子団体準優勝 中山(1年)坂井(1年)亀田(1年) 女子個人準優勝 奥村紗那(1年) 第37回東海地区高等学校囲碁選手権大会に出場します。
吹奏楽	第60回中部日本吹奏楽コンクール岐阜県大会 高校大編成の部 銀賞 第55回岐阜県吹奏楽コンクール岐阜県大会 高校B編成の部 金賞 第72回東海吹奏楽コンクール 高校B編成の部 銀賞
クイズ研究	第37回全国高等学校クイズ選手権 高校生クイズ2017 全国大会出場
応援団男子	第99回全国高等学校野球選手権岐阜大会 二回戦 対 東海大戦 応援 各社行会にて応援
応援団女子	野球応援と岐阜祭ではこれまでの練習の成果を存分に発揮することが できました。応援にご協力いただいた皆さんにお礼を申し上げます。 3年生が引退し、次年度に向けての活動を開始しました。

局・その他

部名	活動・試合結果など
図書	全国高等学校ビブリオバトル2017岐阜県大会 優勝 鶴岡(2年) 図書館でカウンター番着や図書館だよりの作成、館内整備を行っ ています。 11/29に第2回店頭選書を実施しました。12月には図書館講演会 (2回)を開催します。
放送	岐阜県高文連 岐阜県高等学校放送コンテスト新人大会 朗読部門 出場
家庭クラブ	7月 デイサービスセンターここのはな、千手堂病院にて交流会を 実施。 岐阜祭「信長公いくさ湯漬」お茶漬の製作と販売。 10月 点字の学習と、岐阜盲学校文化祭ボランティアと点字の絵 本の寄贈。
英語科	第11回岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト県大会 最優秀賞 川部有結(2年) 第11回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会 5位入賞 川部有結(2年)



## 同窓会から

# 岐高生への贈り物

平成二九年度 岐阜県立岐阜高等学校

校長 南谷 清司

同窓会役員会でかねてからご検討をいただいていた本校生徒へのご支援として、会長の水谷邦照様をはじめ役員の皆様のご了承を得て、平成二九年度には、体育大会の優勝旗を新たに作っていただくとともに、基調講演会を主催していただくことになりました。

現在、岐阜高校には、校旗のほかにも体育大会で優勝した団に与えられる優勝旗があります。これまでの優勝旗は傷みがかなり目立つようになっていましたので、新調していただき、感謝しています。九月一日に行われた体育大会では黄団が優勝し、団長が真新しい優勝旗を手にしました。

基調講演会は、全校行事として以前から行われてきましたが、平成二五年度からは県の事業としての「岐阜高校グローバルリーダー養成事業」

として行われました。そして、昨年度からは同窓会に主催していただくことになりました。

昨年度の基調講演会は一月二日に行われました。大和証券グループ本社取締役会長兼執行役の日比野隆司氏（昭和四九年卒）にご来校いただき、一一三〇人の生徒に「起業のススメ 岐阜から世界へ」と題して講演していただきました。日比野氏は、我が国の将来の繁栄が、新興産業による産業の新陳代謝にかかっていること、生徒は世界の起業家がビジネスを始めた年齢に近いことなどを説明され、失敗を恐れずに挑戦してほしいと、熱いエールを送られました。岐阜高校では、これからも有為な人材を輩出するべく、新たな伝統を力強く築いていきます。今後も同窓会のご支援をよろしくお願いいたします。

(上左・右)新しくなった優勝旗(体育大会は9月1日)

(下左・右)基調講演会と放課後の懇談会(11月2日)



## 平成29年度 大学合格者数

大学名	合格者数
旭川医大	1
北海道大	1
茨城大	1
筑波大	1
群馬大	1
千葉大	5
お茶の水女子大	2
東京大	19
東京外大	3
東京学芸大	1
東京芸大	1
東京工業大	3
東京農工大	2
一橋大	1
横浜国立大	7
富山大	4
金沢大	9
福井大	2
山梨大	1
岐阜大	43
静岡大	7
浜松医大	2
愛知教育大	1
名古屋大	52
名古屋工大	11
三重大	2
滋賀大	1
京都大	20
大阪大	18
神戸大	6
奈良女子大	1
島根大	1
岡山大	1
広島大	5
高知大	1
九州大	3
九州工大	1
宮崎大	1
鹿児島大	1
国際教養大	1
高崎経大	1
首都大東京	1
横浜市立大	1
長野県立大	1
岐阜県立看護大	3
岐阜薬大	3

大学名	合格者数
愛知県立大	2
名古屋市立大	16
滋賀県立大	1
京都府立大	1
京都府立医大	1
大阪市立大	1
大阪府立大	3
兵庫県立大	2
神戸市外大	3
九州歯大	1
岐阜市立女短	1
自治医大	3
埼玉医大	1
千葉工大	2
青山学院大	7
学習院大	1
北里大	1
慶応大	27
国学院大	1
国際基督教大	1
駒澤大	8
実践女子大	1
芝浦工大	3
順天堂大	1
上智大	3
昭和大	1
昭和薬大	1
専修大	1
多摩美大	4
中央大	31
津田塾大	2
東海大	2
東京医大	1
東京工科大	1
東京女子大	5
東京女子医大	2
東京造形大	1
東京農大	1
東京理大	62
東洋大	2
日本大	1
日本女子大	4
法政大	11
星薬大	1
武蔵野美大	4
明治大	33

大学名	合格者数
明治学院大	1
明治薬大	1
立教大	6
早稲田大	50
金沢医大	1
諏訪東京理大	1
朝日大	2
岐阜聖徳学園大	2
岐阜医療科学大	1
愛知大	12
愛知医大	5
愛知学院大	4
愛知工業大	2
愛知淑徳大	10
金城学院大	26
椋山女学園大	8
中京大	14
中部大	6
豊田工大	6
名古屋外大	4
名古屋学院大	1
南山大	64
藤田保健衛生大	10
名城大	82
名古屋学芸大	2
日赤豊田看護大	1
長浜バイオ大	1
京都外大	1
京都産業大	2
京都女子大	2
京都薬大	4
同志社大	119
同志社女子大	1
立命館大	108
京都美術工芸大	1
大阪工大	2
関西大	8
関西外大	1
近畿大	7
関西学院大	5
甲南大	1
川崎医大	1
福山大	2
防衛医科大学校	1
防衛大学校	1

※浪人生を含む

## 平成30年度 岐阜県立岐阜高校同窓会総会運営委員 名簿

委員長 村瀬 幸雄 (昭和 50 年卒)

副委員長 松波 英寿 (昭和 50 年卒) 安江 紀裕 (昭和 60 年卒) 山田 豪 (平成 7 年卒)

	昭和 50 年卒	昭和 60 年卒	平成 7 年卒
事務局	◎清水富士夫 ○園部 利彦 林 香余	◎中村 秀樹 ○大洞 正和 ○林 貴子	◎山田 豪
総務部	◎水野 勝仁 ○荏谷 敬三 大倉 光弘 樺澤 ゆき 小見山英雄 柴垣 紀子 柴田 美貴	◎松久 浩幸 ○吉田 彰宏 ○吉田ちはる 泉 善七 早川 健	◎井深 貴士
財務部	◎渋谷 英司 ○篠田 秀則 大井 芳明 中村 雅之	◎呉岡 文二 ○樋田 守律 真田 和明	◎松浦 誠
広報部	◎田中 健児 ○柴田 武治 ○高木 寛治 ○野田 康彦 佐藤 善昭 加納 暁子 富成 伸育 所 和美 中原 鍊三 中島 利彦 西脇みゆき	◎國本真志登 ○大洞 正和 小寺 禎典 北村 憲正 高橋 孝夫 坂井 紀子 富田 和宏 椿井 康司 富田 和宏 林 克彦 森島 逸郎	◎佐々木 寛 浅井 農 市橋 拓 梅田隆一郎 坊田 武久 三宅 真吾
動員部	◎松田 一雄 ○河田 孝広 ○篠田 達郎 ○戸谷 正弘 ○羽田野昭人 白井 淳美 尾関 清志 花井 国雄 村瀬 圭三 山本 典孝	◎駒月 正人 ○青木 繁美 ○中村 秀樹 飯沼 康之 伊縫 正英 伊能 朋美 浦山 晶子 大野 友子 加藤 浩行 木村 聡 後藤誠一郎 後藤 尚久 棚瀬ひとみ 中野 格侍	◎梅田隆一郎 浅井 農 遠渡 舞 大野 悟史 大松 栄太 高橋 茂清 平野 孝雄 廣瀬 英生 堀部 剛秀 坊田 武久 水野 大 三宅 真吾 山田 豪
会報部	◎園部 利彦 ○坂口 浩之 平光 伸行 松田 雅文 湊口 順子	◎大野 玲子 ○高橋 美幸 岡田 鈴子 真田 和明 寺澤 慎祐 林 貴子 吉田ちはる	◎角原えり子 関谷 真美
会場部	◎伊藤陽一郎 ○大倉 光弘 ○宮崎代里子 江馬城益子 奥村 俊雄 高橋 威	◎中島 豊己 ○岡田 恒一 ○宮崎 文裕 泉 規子 上原 宏美 梅本 雅史 江口 美穂 大野 賢司 河合 和佳 佐藤 陽子 丹所 静代 長屋由香里 長谷川由佳 正木 千尋 毛利 朋靖 森 弘典 渡辺 祐子	◎三宅 真吾 浅野 昇吾 梅田隆一郎 佐々木 寛 高橋 茂清 平野 孝雄 森島啓次郎 山田 豪

◎責任者 ○副責任者

応援团团歌

- 一、 金華城頭月冴えて  
蓋世の英雄信長の  
万象すべて沈黙なり  
雄図の跡に苔むしぬ
- 二、 嗚呼熱血児信長の  
ありし昔を偲びては  
覇業は夢と消え果てど  
健児無量の想ひあり
- 三、 熱血受けし一千の  
桜の香り身に沁みて  
心一つの健児等が  
根城構へて百三十九年
- 四、 悲壯の風の吹き荒び  
校の徽章の桜花  
混濁の波逆巻けど  
身もて護る健児団
- 五、 如何なる敵の迫るとも  
破邪の剣をぬき立てば  
寄せ来る仇は多くとも  
竜車に向う螭螂ぞ
- 六、 敵に鬼神の勇あるも  
我には紅き血潮あり  
仇に天魔の計あるも  
からくれなるを見ずや君
- 七、 さはあれ心せ同胞の  
桜の花の散るあらば  
香りは永き百三十九年  
散るその下に死なん哉
- 八、 誘ふ嵐に散らされず  
朝日に匂ふ桜花  
尽くせし心の現はれて  
その花の下に我れ立たん

凱旋歌

- 一、 泰山厲と消ゆるとも  
誓って桑梓に見えじと  
我が身に功なかりせば  
出でし華陽の健男児
- 二、 されど見よ見よ今はこれ  
姿を変えて悠々と  
我が大丈夫は帰り来ぬ  
身に大功の光そへ

# 平成三〇年度 総会出席者名簿

## ■来賓

岐阜県知事

古田 肇

(昭和41年卒)

在京(首都圏)

岐阜高校同窓会会長

尾関 良平

(昭和37年卒)

岐阜市長

柴橋 正直

(平成10年卒)

岐阜高等学校校長

折戸 敏仁

幹事学年恩師

渡邊 利昭

大矢 邦彦

横山 勢津男

森 俊勝

沼波 政信

宮部 敏男

(昭和35年卒)

江崎 正徳

水野 秀則

加藤 知之

丹羽 章

(昭和49年卒)

河口 澄子

坂井 俊郎

小池 秀男

宮川 直樹

(岐中)

昭和15年卒

翠 忠明

昭和19年卒

栗野 道男

吉田 豊

昭和20年卒

石井 盛次

杉山 幹夫

川島 恒夫

昭和23年卒

岡本 太右衛門(良平)

高安 義英

西澤 恭平

松久 弘子(武井)

吉村 英太郎

昭和24年卒

遠藤 允子(沢田)

植村 ヒサコ

川島 千夜子(岡部)

昭和34年卒

天野 桂子(太田)

金武 和彦

鷺見 貴江(武藤)

藤井 孝一

藤浦 規子(熊田)

清水 外治

安江 紀子(三輪)

渡辺 イキ子(和田)

昭和30年卒

木村 繁夫(茂生)

杉山 すみ子(和田)

高井 哲

昭和31年卒

小塩 敦子

金武 恭

高見 良治

野々垣 孝(青木)

水野 武彦

今井 春昭

佐野 実

澤田 尚子(篠田)

松原 基明

大脇 聖子

葛西 孝子

亀山 美代子(大野)

西野 義英

浦田 桂子(大橋)

岡本 文吉

奥野 佳代子(加納)

古谷 葉子(寺川)

昭和37年卒

浦田 桂子(大橋)

葛谷 武彦

小寺 忠

高橋 秀法

玉井 博祐(弘子)

丹下 忠彰

中谷 克彦

安田 仁彦

昭和35年卒

石井 直子(後藤)

角田 菜瑛子(栗木雅子)

篠田 薫(青木)

平塚 正之

安田 洋一郎

山内 英通

山田 正

昭和36年卒

今井 春昭

佐野 実

澤田 尚子(篠田)

松原 基明

大脇 聖子

葛西 孝子

亀山 美代子(大野)

西野 義英

浦田 桂子(大橋)

岡本 文吉

奥野 佳代子(加納)

古谷 葉子(寺川)

昭和38年卒

葛谷 武彦

小寺 忠

高橋 秀法

玉井 博祐(弘子)

丹下 忠彰

中谷 克彦

伊藤 雪子(水岡)

北川 豊晃

桐井 犬三

竹中 安子(窪田)

昭和39年卒

衣笠 宏允

柴田 丈夫

関谷 幸平

高橋 泰之

馬場 健三

見田村 勝信

森川 幸江(梅田)

山田 謙一

山村 哲朗

昭和40年卒

石井 正志

岩田 嘉彦

横山 仁美(伊藤)

犬飼 晋一郎

江崎 雅康

兼山 瓊典

桐山 直泰

栗本 弘嗣

小石 千代子(岩田)

加藤 俊子(河野)

後藤 真一

西尾 有生

水谷 邦照

吉田 啓子(宮木)

宮田 博之

新美 佐知子(渡辺)

昭和42年卒

市川 治徳

小笠原 文雄

後藤 三郎

滝 雅夫

信田 朝次

西部 健次

則竹 晶

箕浦 洋和

山口 隆士

昭和43年卒

青木 広久

石田 栄

岩佐 正人

岩間 憲三

大橋 卓二

鷺見 守昭

長縄 幸子(西田)

日比 祥博

昭和44年卒

後藤 清

松田 英文

八木 正子(中嶋)

杉山 正裕(伊藤)

梅沢 敏郎

坂井 明

馬場 祐子(高橋)

辻 宏介

橋詰 芳範

南谷 清司

遠藤 宏治

水野 耕司

早矢仕 直彦(川並)

細野 哲弘

木方 伸一郎

木村 容子(犬飼)

鹿野 孝紀

嶋崎 吉弘

鷺見 博信

関谷 啓子(佐藤)

福井 真一

昭和47年卒

大平 高司

本田 勝

山口 芳典

山田 貞夫

昭和48年卒

大野 智彦

坂井田 勉

白川 浩

杉山 保幸

服部 哲明

三輪 邦彦

昭和49年卒

杉山 正裕(伊藤)

梅沢 敏郎

坂井 明

馬場 祐子(高橋)

辻 宏介

橋詰 芳範

南谷 清司

遠藤 宏治

水野 耕司

早矢仕 直彦(川並)

細野 哲弘

宮崎 代里子(浅見)

加納 暁子(青木)

伊藤 陽一郎

岩田 和久

伊井 和彦

伊藤 浩樹

石原 薫

柴垣 紀子(市川)

稲垣 耕一

亀島 祝子(岩田)

岩田 啓之

岩佐 峰子

白井 淳美

金子 規子(梅原)

内田 互

遠藤 定美

大久保 克彦

奥村 俊雄

野村 登美(小野)

奥谷 文隆

小栗 憲治

尾関 清志

大倉 光弘

小越 純子

西脇 みゆき(太田)

大井 芳明

川合 正展

加藤 達司郎

加藤 淳司

加藤 和貴

河合 成司

神山 博

水野 智子(河合)

川部 昌洋

河田 孝広



総会出席者

中村 雅之	守安 保	志知 朋子(中山)	佐伯 淑子(田中)	小寺 禎典	吉田 彰宏	呉岡 文二	早川 徹
中島 利彦	村瀬 圭三	鳥澤 英紀	安田 章男	神原 智	後藤 誠一郎	大洞 正和	水谷 弘隆
戸谷 正弘	米園 弥生(村松)	戸谷 理英子	昭和55年卒	川口 竜司	梅本 雅史	伊藤 善寛	藤枝 豊和
所 和美	村瀬 幸雄	棚橋 寛一	昭和55年卒	梅田 晃司	岩前 良夫	高橋 美幸(篠田)	小島 光則
鳥村 拓司	水谷 俊宏	児玉 智永子(瀬川)	杉山 文康	安田 仁	青木 繁美(間野)	伊能 朋美(佐野)	栗田 真弓(加藤)
葦埜 美保子(竹中)	三輪 正人	棚橋 功史	伊在井 みどり(安江)	大野 和裕	林 貴子(松尾)	大野 玲子(笠井)	竹中 俊雄
大久保 由紀子(高木)	水野 勝仁	末岡 良明	赤石 成徳	矢島 逸郎	柳澤 素子(棚瀬)	正木 千尋	森 章人
田中 健児	松波 英寿	佐藤 通彦	昭和54年卒	森島 慎祐	大野 友子(棚瀬)	前田 寛徳	中村 正
立木 恒雄	松田 雅文	神谷 眞弓子(近藤)	昭和54年卒	寺沢 慎祐	尾畑 あけみ	中島 豊己	国井 重宏
河合 悟(田中)	山田 昌子(前田)	後藤 哲郎	吉田 万里子	齋藤 哲也	丹所 静代(潮田)	柴田 貴嗣	中山 里香
竹中 茂	松田 一雄	五島 貴弘	昭和53年卒	國本 真志登	古田 修身	近藤 和巳	長尾 武
高木 寛治	宮地 斉子(松田)	木村 昭孝	昭和53年卒	大星 光世	野原 徹二	河合 和佳(家洞)	高田 基志
田中 道雄	松井 義親	河野 陽子(栗田)	平光 恵美子	高橋 浩子(岩井)	伊藤 和代(高見)	早川 理子(森)	平野 聡子
園部 利彦	細井 伸二	河合 潤	久松 明美(岩屋)	大西 晶子(新居)	石川 嘉奈子(伊藤)	山田 直子(林)	大野 孝
柴田 美貴(仙石)	林 香余(広瀬香代)	眞野 綾子(大野)	宗宮 英雄	松原 史尚	大島 俊江(清水)	長谷川 由佳	大西 量一郎
湊口 順子(瀬木)	日露 義泰	市橋 正樹	川端 久勝	高橋 浩子(岩井)	伊藤 和代(高見)	浅野 満由美(玉井)	野々村 秀彦
杉原 弘造	廣瀬 卓司	伊藤 武	昭和52年卒	松原 史尚	市橋 香代	渡辺 祐子(角田優子)	中島 誠治
篠田 明典	平光 伸行	別役 奈穂子(稲川)	昭和52年卒	昭和59年卒	酒井 宏美(安達)	樋田 守律(小本眞理)	細江 伸央
柴田 武治	広瀬 秀司	昭和51年卒	昭和中卒	澤田 悦子(田中)	林 克彦	志田 美智代(及川)	下野 泰輔
篠田 秀則	坂 幸二	幅 昌子(渡辺)	吉村 有人	服部 弘典	沢田 道夫	松久 浩幸	小森 泰二
渋谷 英司	原 匡哉	和田 邦一	吉田 昭雄	服部 弘典	沢田 道夫	松久 浩幸	小森 泰二
篠田 達郎	林 正治	渡邊 威	吉田 眞司	松本 智津子(平野)	小川 学	中村 秀樹	木原 誠司
清水 富士夫	林 貴康	渡邊 篤	小久保 恵子(矢田)	太塚 茂記	白井 洋	真田 和明	白井 英樹
佐々木 俊之	林 清隆	寺崎 曜子(吉田)	山口 正人	昭和58年卒	稲川 淳子(丹羽)	加藤 浩行	昭和61年卒
樋口 和子(嵯峨)	羽田野 昭人	山口 喜弘	矢嶋 茂裕	富田 正人	富田 美穂子	岡田 恒一	庄司 知子(村上)
酒井 喜市郎	林 信秀	吉田 嘉文	山口 正人	松岡 正人	富田 和宏	伊藤 正英	
坂口 浩之	野久 徹	八木 学	溝渕 健一	富田 康司	樁井 康司	石原 泰潤	松原 眞美(間宮)
近田 和彦	野原 清嗣	山田 壮一	松久 卓	飯沼 康之	飯沼 康之	松原 一恵	末松 知恵(増田)
小倉 俊英	西村 里恵	蒲澤 ゆき(山本)	丸山 和文	北村 多佳子(小森)	宮部 敏昌	岡田 鈴子(古田)	浦山 晶子(永井)
鬼頭 博之	百々 修司	安田 保馬	林 一郎	奥田 勝彦	船江 修	吉田 ちはる(藤)	安達 高子(篤木)
北原 久史	江馬城 益子(中村)	山田 典夫	速水 泰広	大森 康二朗	清水 省吾	笠原 かおる(田中)	山田 佳津良
萩谷 敬三	永田 雅裕	山本 典孝	野原 康正	昭和56年卒	駒月 正人	江口 美穂	早川 健

- |                                   |   |                       |  |  |                 |                |                 |   |  |                 |  |   |                 |                                   |  |   |                 |
|-----------------------------------|---|-----------------------|--|--|-----------------|----------------|-----------------|---|--|-----------------|--|---|-----------------|-----------------------------------|--|---|-----------------|
| 昭和62年卒<br>伊藤 裕史<br>大西 伸介<br>澤田 大輔 | 平成元年卒<br>林 雄一郎<br>伊藤 徳高<br>鈴木 仁志<br>岩井 浩司<br>広瀬 修<br>三輪 忠弘<br>森嶋 将隆 | 平成2年卒<br>遠藤 元庸<br>坂 裕 | 平成3年卒<br>畑中 徹<br>杉下 裕士<br>服部 英裕<br>奥田 嘉彦 | 平成4年卒<br>初音 俊樹<br>桑原 賢典<br>浅井 稔博<br>吉村 光太郎<br>土田 豊 | 平成5年卒<br>今井田 一樹 | 平成6年卒<br>恩田 昌直 | 平成7年卒<br>小木曾 富生 | 葛島 知加(横山)<br>梅田 隆一郎<br>佐々木 寛<br>説田 寿<br>長縄 俊明<br>浅井 純子<br>藤本 知世(大平)<br>角原 えり子(奥長)<br>中島 和美<br>長屋 真由美<br>梶浦 暁<br>北川 敬之<br>柴山 武英<br>永井 宏忠<br>番 聖仙<br>藤井 辰朗<br>藤根 健司<br>清水 舞(遠渡)<br>楠本 陽子<br>川嶋 佳奈(杉野)<br>石井 竜介<br>平野 孝雄<br>森島 啓次郎<br>稲葉 由里子<br>松下 範江(高橋)<br>古田 泰子<br>市橋 拓<br>小木曾 健太郎<br>小幡 匡志<br>小見山 吉朗 | 佐合 美佳<br>佐村 弥生<br>高橋 幸奈<br>田口 菜津子<br>古川 聡美<br>浅野 修平<br>大松 栄太<br>奥野 大作<br>河村 智司<br>桐山 泰伸<br>手嶋 兼次<br>古澤 健一<br>堀 弘典<br>坊田 武久<br>正木 健司<br>奥村 祥子(青山)<br>岩田 香織<br>大澤 まどか(児嶋)<br>古川 維美<br>早川 典子(武藤)<br>大野 悟史<br>長尾 亘裕<br>安田 聡<br>小川 佳世子<br>戸崎 眞季子<br>濱野 泰子<br>中村 郁(安田) | 北川 恭正<br>大森 健太郎 | 岐阜高校同窓会担当<br>の先生<br>末岡 良明<br>(昭和51年卒)<br>鷺見 敦子<br>(昭和54年卒)<br>大野 玲子<br>(昭和60年卒)<br>関谷 篤<br>(昭和61年卒)<br>藤澤 友祥<br>(平成10年卒)<br>坂本 奈菜子<br>(平成21年卒) | 平成8年卒<br>長谷川 真也<br>早川 陽介<br>山田 淳<br>土屋 和洋<br>三浦 陽平<br>山内 寛明 | 平成11年卒<br>白木 元康 | 平成12年卒<br>石井 克尚<br>岩田 佳典<br>玉井 裕也 | 平成13年卒<br>佐橋 雄介<br>高橋 清孝<br>長屋 宏明<br>四ツ橋 憲彦<br>藤川 貴雄 | 平成14年卒<br>内藤 巖之<br>河村 純<br>坂井 裕介<br>水間 貴昭 | 平成18年卒<br>眞野 豊樹 |
|-----------------------------------|---|-----------------------|--|--|-----------------|----------------|-----------------|---|--|-----------------|--|---|-----------------|-----------------------------------|--|---|-----------------|



運営委員会の様子 (ぎふメディアコスモスにて)

## 編集後記

### ▽広告のご協賛の 御礼

平成三〇年度岐阜高等学校同窓会  
総会の開催に伴う会報の発行に際  
し、広告のご協賛を賜りました皆様  
に厚く御礼申し上げます。

なお、ご紹介順序は会報の構成上、  
原則的に順不同となっております。  
何卒ご了解いただきますよう、よろ  
しくお願い申し上げます。

平成三〇年六月一〇日

岐阜県立岐阜高等学校同窓会  
平成三〇年度総会運営委員会

今年の会報では、当番幹事学年がお世話になった恩師の方々の寄稿に加えて、世界を舞台に活躍される方々、人を育て広く社会を思う方々が考えておられることをご紹介しました。また、イベントに関連して現役生との懇談も収録しました。玉稿をお寄せいただいた皆様と、特集企画にご協力いただいた皆様に、先ずは衷心より感謝申しあげます。

南アフリカ共和国の出身で、スペースX社、テスラなどを率いる実業家、投資家で技術者でもあるE.マスクは、アメリカの宇宙技術について、一九六九年に人間を月に送ったが、次のスペースシャトルは地球の低軌道周回だけで引退し、以後アメリカは地球周回軌道に誰も送り込んでいないとし、宇宙技術力の右肩下がり傾向を危惧するとともに、それには理由があると見えています。——「技術が自動的に進歩することはない。多くの人々が大変な努力を積み上げ、うまくできたときにだけ進歩する。むしろ技術はそのままでは退歩する。古代エジプトの人々は巨大文明やピラミッドを造ったが、我々はどうやって築かれたかを忘れた。ローマ時代の水道橋の作り方も。」(TED、“The future we’re building - and boring”)

社会が複雑化し、先行きが不透明だと言われますが、将来の社会が単純で見通しが良くなることはないでしょう。変革し挑戦し続け、成果をもたらすことが必要で、そのためには、一事を成し遂げるための努力が不可欠です。達成すべき目標を明晰し、努力と成果を積み上げない限り、「こうなってほしい」という未来にはならないのです。

その意味で、我々には、各分野において愚直に努力することが求められていると思います。荒波の中でも渾身の力で岸に向かって漕ぎ行く健児の如く、これからも元気に進もうでは  
ありませんか。

この会報が、皆々様に希望と力を与えるものになれば幸甚です。

平成三〇年六月 同窓会総会運営委員会・会報部会

平成三〇年度  
岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会

# 会報

■発行

平成三〇年六月一〇日

■編集

岐阜県立岐阜高等学校同窓会  
平成三〇年度総会運営委員会

■印刷

サンメッセ株式会社